

大阪市立自然史博物館館報

34

(平成20年度)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成22年 3月31日発行

目 次

大阪市の博物館「群」	1
調 査 研 究 事 業	3
資 料 収 集 保 管 事 業	12
展 覧 事 業	23
普 及 教 育 事 業	28
広 報 事 業	40
刊 行 物	43
連 携 (ネットワーク)	44
庶 務	45

大阪市の博物館「群」

館長 山西良平

大阪市は長年にわたって多様な博物館・美術館を設置しその充実を図ることで、一都市としては傑出した博物館「群」を築き上げてきたと言われているが、全国の公立博物館の設置状況から見ると実際はどうだろうか？

大規模自治体（都道府県・指定都市）が設置している公立博物館数を博物館総覧にもとづいて比較すると、横浜市（17）が最も多く、北海道・神奈川県（16）、東京都・石川県（15）、兵庫県（13）、千葉県・浜松市・大阪市（12）と続く（括弧内は館園数）。指定都市の中では大阪市立の博物館数は横浜市に次ぐ2位であるが、登録博物館・相当施設を合わせた数では名古屋市と共に1位（6館）である。このように登録・相当施設さらに公開承認施設を中心に歴史、美術、自然史、理工、動・植物園などの館種を網羅的に充実させ、市民の多面的な要求に応えようとしているところが「傑出」している点であると考えられる。

また、大阪市の博物館「群」は天王寺動物園（1915年）をはじめ、大阪城天守閣（1931年）、市立美術館（1936年）、電気科学館（1937年）など20世紀の早い時期から設置されてきた古い歴史を持つ。当館も公立の自然史系博物館として全国に先駆け、1950年に「大阪市立自然科学博物館」として開設された。

大阪市教育委員会は、1977年に教育長名で「大阪市における博物館整備充実の方向」という方針を策定し、全国に発信した（博物館研究1977年11月号）。そこではそれまでの博物館設置の流れを総括すると共に、1990年代に向けて博物館整備の基本方針と整備構想が明らかにされている。このような設置者の見識が「傑出」した博物館「群」を支えてきたと言ってよいであろう。

その後、景気高揚を追い風に各施設の充実が図られ、電気科学館は市立科学館に、市立博物館は大阪歴史博物館にそれぞれ名称を改めた。また、1982年には安宅コレクションを核とした東洋陶磁美術館が開館するとともに、市制100周年事業の一環として近代美術館の建設が計画され作品の収集が進められてきた。さらに大阪市の行政組織はそれぞれの目的に沿って、なにわの海の時空館、大阪南港野鳥園、大阪市住まいのミュージアム、キッズプラザ大阪、生き生き地球館、水道記念館、大阪市下水道科学館、咲くやこの花館などの展示施設を設立した。このように21世紀を迎えて大阪市の博物館「群」はいっそう「傑出」の度合いを高めることとなった。

しかし、その後の景気後退、財政難、行政改革の流れの中で博物館「群」も大きな試練を迎えている。とりわけ地方自治法の改正によって指定管理者制度が導入され、博物館施設にもそれが適用されたことにより、2006年度以降、大阪市においても当館を含む多くの館園がその波を被ることとなった。しかし、公共施設の管理代行者を、期間を数年間に限定して選定を繰り返すという指定管理者制度は、学術研究、資料収集保管、展示、普及教育などの多面的な公的事業を担って常に5年、10年先を見据えながら活動していかなければならない博物館の安定的な経営にとってはまさに

「百害あって一利無し」である。

2007年度、大阪市の行政の中に「博物館群運営企画担当」という組織がつけられた（ゆとりとみどり振興局、文化部に所属）。ここが核となって博物館「群」の事業連携とそのプロモーションに取り組んでいる。同時に、指定管理者制度の下では各博物館の事業・運営の継続性が担保されないという認識に基づき、その弊害から脱却するために、国に対して地方独立行政法人制度の博物館への適用を働きかけ、その実現に備えてきた。具体的には構造改革特区制度を活用して「地方独立行政法人による博物館設置・運営の実現」を2度に亘って内閣府に提案してきた。そして2009年秋の国からの最終回答には、指定管理者制度の弊害に悩む博物館界各方面からの大きな期待も寄せられていた。

残念ながら最終回答は「対応困難」で、来年度以降も私たちは指定管理者制度と向き合うこととなった。引き続き、各館それぞれの魅力と併せて、これまで培ってきた博物館「群」としての「傑出」した総合力と連携の力を発揮することによって、その真価を周囲に評価していただくとともに、博物館の事業・運営に欠かすことのできない継続性についても理解を得られるように努力を続けていきたい。

調査研究事業

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科学研究費補助金の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろそろ博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度は、学芸員の個別テーマによる研究をはじめ、「淀川水系の水質・生物調査」等の学芸課をあげて取り組み市民も巻き込んだ調査活動、「西日本自然史系博物館ネットワークによるGBIF事業」等の博物館連携による調査研究を実施してきた。その成果は館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、特別展や講演会を通じて市民に普及した。

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長	山西良平 (Ryohei YAMANISHI)	
動物研究室	波戸岡清峰 (Kiyotaka HATOOKA)	主任学芸員
	和田 岳 (Takeshi WADA)	学芸員
	石田 惣 (So ISHIDA)	学芸員
昆虫研究室	金沢 至 (Itaru KANAZAWA)	主任学芸員
	初宿成彦 (Shigehiko SHIYAKE)	学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO)	学芸員
植物研究室	佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA)	学芸員
	内貴章世 (Akiyo NAIKI)	学芸員
	志賀 隆 (Takashi SHIGA)	学芸員
地史研究室	樽野博幸 (Hiroyuki TARUNO)	学芸課長
	川端清司 (Kiyoshi KAWABATA)	学芸課長代理
	塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI)	主任学芸員
第四紀研究室	石井久夫 (Hisao ISHII)	主任学芸員
	石井陽子 (Yoko ISHII)	学芸員
	中条武司 (Takeshi NAKAJO)	学芸員

平成21年3月31日現在

II. 研究テーマ

■山西良平 (館長)

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 日本の干潟の多毛類フォーナの調査研究
- (3) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究

■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾、瀬戸内海及びその周辺海域の魚類相の調査
- (3) 淀川水系の魚類相の調査

■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリ採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 淀川水系の鳥類・両生爬虫類・哺乳類の分布についての研究
- (5) 大阪府下の哺乳類の分布についての研究

■石田 惣 (動物研究室)

- (1) 軟体動物（イシガイ類、腹足類）の生態学・行動学的研究
- (2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
- (3) 生物映像のアーカイビングとその活用
- (4) 淀川水系の無脊椎動物相と分布
- (5) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相

■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) 昆虫・クモ類の活動周期の研究

■初宿成彦 (昆虫研究室)

- (1) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミに関する研究
- (4) ツガにつくカサアブラムシとその天敵に関する調査

■松本吏樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性、分類、系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

■佐久間大輔 (植物研究室)

- (1) 外生菌根性菌類の生態学的研究
- (2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究

- (3) 二次林植物群集の研究
- (4) 菌類インベントリーの手法と体制
- (5) 博物館情報システムの構築

■内貴章世（植物研究室）

- (1) アリドオシ属（アカネ科）の分類学的研究および繁殖生態学的研究
- (2) 異型花柱性の進化に関する研究
- (3) サツマイナモリの集団遺伝学的研究
- (4) ルリミノキ属（アカネ科）の分類学的研究および高次倍数化に関する研究

■志賀 隆（植物研究室）

- (1) コウホネ属（スイレン科）の分類学および生物地理学的研究
- (2) 植物の雑種形成および雑種分化に関する研究
- (3) 水生植物の保全に関する研究
- (4) 水湿地の植物相に関する研究

■樽野博幸（地史研究室）

- (1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
- (2) 大阪平野および周辺地域における、鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究
- (3) 中国産長鼻類に関する研究
- (4) 長鼻類の足跡化石に関する研究

■川端清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放射虫化石に関する研究
- (3) 現生放射虫に関する研究

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) ショウガ科果実化石の分類学的研究

■石井久夫（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野第四紀層産貝化石の古生態と古環境に関する研究
- (2) 長野県野尻湖層産淡水貝化石の研究（野尻湖貝類グループの一員として）
- (3) 干潟に生息する現生貝類の研究

■石井陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

■中条武司（第四紀研究室）

- (1) 干潟などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 淀川水系の水質や環境に関する研究
- (3) 大阪平野の地下水利用に関する研究

Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
アカネ科における倍数体の起源および二型花柱性喪失と自殖の進化に関する研究	内貴章世

(4年間継続の1年目) (課題番号:20770073)

○9月1日～5日の5日間、鹿児島県屋久島町（屋久島）に出張した。

○屋久島（鹿児島県屋久島町）において、アカネ科アリドオシ属の分布調査および資料収集を行った。

○アリドオシ属の蛍光 *in situ* ハイブリダイゼーション法による雑種性の検証のための予備実験をおこなった。

○アリドオシ属の分子系統樹作成のための実験をおこなった。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
水生植物コウホネ属における生育形および異形葉形成の進化的背景	志賀 隆

(3年間継続の1年目) (課題番号:20770074)

○7月15日～17日、9月7日～9日、12月8日の7日間、広島県、岡山県、兵庫県に出張した。

○7月26日～27日、9月16日～18日、12月9日～10日の8日間、栃木県に出張した。

○9月22日～24日の3日間、新潟県に出張した。

○対象種の葉や茎の形態学的な特徴、根茎の成長様式などを調査した。

○各種間のF1作出と共に、雑種形成の方向性や生殖隔離の有無を直接検証するために交配実験を行った。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
鮮新世から更新世に日本から絶滅した 甲虫類に関する研究	初宿成彦
(3年間継続の3年目)	(課題番号18770074)
○10月27日～30日の4日間、北海道幌延町に出張した。	
○ロシア・ウラジオストクで標本調査を行った。	

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
ヒシ科の進化系統の研究—新属化石から さぐるヒシ科の進化—	塚腰 実
(2年間継続の2年目)	(課題番号19540499)
○日本各地のアスナロビシ属の標本調査を行った。	

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	研究分担者
市民参加による淀川水系生物 環境総合調査とその博物館学的 意義	中条武司	石田 惣 志賀 隆 波戸岡清峰
3年間継続の1年目	(課題番号20605021)	
○淀川の自然環境調査を実施する「プロジェクトY」を市民と共に実施した。		

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者	当館分担者
アジア産農林害虫・有用昆虫の 種情報の体系化・ネットワーク化 と分散検索システム	多田内 修	金沢 至
(3年間継続の3年目)	(課題番号18208006)	
○昆虫類の完模式標本のデータを入力した。		

3. 当館学芸員が研究協力者となったもの

■基盤研究 (A) (海外)

研究課題	研究代表者	当館研究協力者
日華植物区系の西端としての 南ヒマラヤ地域の植物の 多様性	邑田 仁	内貴章世
(5年間継続の4年目)	(課題番号: 17255004)	
○11月23日～12月15日の23日間、ミャンマー連邦に出張した。		
○ミャンマー連邦シャン州、アラカン州、バゴー管区にお		

いて、野生植物および有用植物の調査を行い、約700種5000点のさく葉標本を作成した。

○王立クィーンシリキット植物園と、今後継続的に植物標本の交換を行う協力体制ができた。

IV. 財団等の助成を受けて行った研究

■日本生命財団学際総合研究助成

研究課題	研究代表者	当館分担者
環境保全と地盤防災のための 大阪平野の地下水資源の 活用法の構築	益田晴恵	中条武司 (大阪市立大学)

■アメリカ農務省

研究課題	研究代表者
ツガカシアブラムシの 天敵の評価と収集	初宿成彦
○国内各地のツガ林で調査を行った。	

V. 海外派遣

■科研費 (基盤研究) による出張

氏名: 内貴章世
日程: 2008年11月23日～12月15日 (23日間)
出張先: ミャンマー連邦
目的: 南ヒマラヤ地域の植物相調査。詳しくは「基盤研究 (A) (海外)」を参照。

■ユカギルマンモス展への展示協力

氏名: 樽野博幸
日程: 2008年7月7～15日
出張先: 台湾台北市市民民主記念館
日程: 2008年11月28～30日
出張先: 台湾台中市台湾国立自然科学博物館

VI. 著作活動

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study 誌は、ns. と略記した。同誌の表紙が本文と一連の内容の場合は、表紙を記事の一部とみなしてページを付し、シリーズ名は省略した。当館学芸員以外の著者には氏名に*を付した。

【館長】

- 山西良平 (2008.12) 公立博物館の在り方をめぐって. 博物館研究 43 (12):21-25.
- 山西良平 (分担執筆) (2008.5) 干潟を考える 干潟を遊ぶ. 東海大学出版会 161pp.
- 山西良平 (2009.2) 公立ミュージアム経営の新たな可能性 大阪市 (地方独立行政法人化の試み). Cultivate (33):35-39.
- 山西良平 (2009.1) 小難しい学芸員のやさしい小嘶 ウミアザミ. ns. 55 (1):6.

【動物研究室】

- 波戸岡清峰 (2008.5) 3章 干潟の生き物、5章 日本の干潟 (2-4 瀬戸内海、2-7 南西諸島). 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編、干潟を考える干潟を遊ぶ. 大阪市立自然史博物館叢書3, 大阪, pp. xvi-xvii, 68-70, 91-92, 94
- 和田岳 (分担執筆) (2008.5) 干潟を考える 干潟を遊ぶ. 東海大学出版会.
- 和田岳 (2008.6) 都市公園における果実とヒヨドリの関係. 大阪府立学校環境緑化研究会研究会報, 34:6-8.
- 和田岳 (2008.12) 長居植物園でみつけた鳥の羽根の散乱2 2007年秋の子どもワークショップ「めざせ! ハネハネはかせ」報告. ns. 54:166.
- 和田岳 (2009.3) 鳥と花. ns. 55:33.
- 石田惣 (分担執筆) (2008.5) 干潟を考える 干潟を遊ぶ. 東海大学出版会.
- 石田惣 (2008.7) ダーウィンって誰? 進化って何? 「種の起源」はどうスゴイのか? ns. 54:2-4.
- 福岡修*・石田惣・中川登美雄* (2008.12) 福井県沿岸に見られる打ち上げ貝. 福井市自然史博物館研究報告, 55:123-138.

【昆虫研究室】

- 金沢至・宮本彰* (2008.3) 淀川水系のトンボ調査会 (2) 大阪市旭区城北公園・淀川区西中島. Gracile (70):62.
- 谷幸三*・金沢至 (2008.3) 淀川水系のトンボ調査会 (3) 天の川の支流尺治川. Gracile (70):67-68.
- 金沢至・大島新一郎* (2008.5) アサギマダラは集団を好むか? アサギマダラ特集の序にかえて. ns. 54 (5):1-2.

- 大島新一郎*・金沢至 (2008.5) 五島列島から台湾へ移動したアサギマダラ—2007年の再捕獲の話題—. ns. 54 (5):3-4, 20.
- 長谷川政興*・金沢至編著 (2008.5) アサギマダラ年鑑2005. 日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト.
- 金沢至 (2008.6) 日本の自然史系博物館の現状と将来 (1). 昆虫と自然 43 (6):44-47.
- 金沢至・山本博子* (2008.8) 台湾陽明山公園から高知県へ移動! 速報. 渡りチョウを調べる会ニュース2 (1):4.
- 金沢至・村上豊* (2008.8) アサギマダラを調べる会. 団体紹介1 渡りチョウを調べる会ニュース2 (1):4-5.
- 金沢至 (2008.8) アサギマダラ年鑑2005の発行、渡りチョウを調べる会ホームページへの登録と新入会、編集後記. 渡りチョウを調べる会ニュース2 (1):13-14.
- 金沢至 (2008.8) 日本の自然史系博物館の現状と将来 (2). 昆虫と自然 43 (8):44-47.
- 多田内修*・金沢至 (2008.9) アジア産農林害虫・有用昆虫の種情報の体系化・ネットワーク化と分散検索システム2. 種情報データベースの構築と利用2. 昆虫担当学芸員協議会ニュース (17):13-19.
- 金沢至 (2008.10) 日本の自然史系博物館の現状と将来 (3). 昆虫と自然 43 (10):32-36.
- 陳建志*・金沢至・日吉芳朗*・朱建青*・山本博子* (2008.12) 2006年に日本から中国大陸へ移動したことが判明! 速報2. 渡りチョウを調べる会ニュース2 (2):6-7.
- 金沢至 (2008.12) 編集後記. 渡りチョウを調べる会ニュース2 (2):14.
- 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター (編著) (2008.5). 干潟を考える・干潟を遊ぶ (大阪市立自然史博物館 叢書3). 東海大学出版会. (分担執筆: 初宿が干潟の生き物、昆虫部分を担当)
- 初宿成彦 (2008.7) <ネイチャーQ>都市化とクマゼミ. 伝熱 (200):60-61. (社)日本伝熱学会.
- 初宿成彦 (2008.8) 2007年のセミの発生量について〜鞆公園セミのぬけがらしらべ結果ほか〜. ns. 54 (8):8-9.
- 初宿成彦 (2008) 大阪のセミについて ~ぬけがらの見分け方とクマゼミの増加~. 第39回 大阪府私学教育研修会理科 (生物) 分科会、平成20年度生物実験実習会:

- 11-21.
- 初宿成彦 (2008.9) 観察しよう・セミのいろいろ。私たちの自然49巻8・9月号 (通巻539号) : 16-17. 鳥類保護連盟.
- Lamb, A. *, S. Shiyake, S. Salom*, M. Montgomery*, and L. Kok* (2008.9) Evaluation of the Japanese *Laricobius* sp. n. and other natural enemies of hemlock woolly adelgid in Japan. In B. Onken and R. Reardon [eds.], Fourth Symposium on Hemlock Woolly Adelgid in the Eastern United States. USDA Forest Service, Forest Health Enterprise Team, Hartford, Connecticut, USA: 29-34.
- Shiyake, S., Y. Miyatake*, M. E. Montgomery*, and A. Lamb* (2008.9) . Hemlock woolly adelgid phenology and predacious beetle community on Japanese hemlocks. In B. Onken and R. Reardon [eds.], Fourth Symposium on Hemlock Woolly Adelgid in the Eastern United States. USDA Forest Service, Forest Health Enterprise Team, Hartford, Connecticut, USA: 261-266.
- 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター (編著) (2008.10) 鳴く虫セレクションー音に聴く虫の世界. 大阪市立自然史博物館 叢書 4. 東海大学出版会. 331pp. (初宿が「はじめに」「セミの鳴き方と進化」「原始日本のセミ=ヒメハルゼミの魅力」「セミの系統進化と生物地理」「おわりに」をなど担当)
- 初宿成彦 (2008.11) ヒラズゲンセイの温暖化による北上と生活史. 昆虫と自然 43 (12) : 9-12.
- 安井通宏*・初宿成彦 (2008.11) 大和川水系岩湧山・滝畑周辺の水辺のゴミムシ相と分布状況. 環境動物昆虫学会創立 20周年記念大会 (京都大学) ・要旨集: 43.
- 初宿成彦ほか (2008.12) 大阪で13年ぶりに開催! 日本セミの会第60回談話会の記録. CICADA 19 (2/3) : 45-47. 日本セミの会.
- 初宿成彦 (2008.12) ハナノミの学芸員. 高桑正敏の解体虫書: 181. 華飲み会 (高桑正敏さんの還暦と退官を祝う会).
- 初宿成彦 (2008.12) 鳥飼兵治コレクション~展示会の開催と今後の取り扱いについて~. 鳥飼兵治氏の台湾甲虫誌. 地域甲虫自然史 (4) : 73. 日本甲虫学会.
- 初宿成彦 (2009.1) 滋賀県内のエゾハルゼミの記録. Came 虫 (149) : 3. 滋賀虫の会.
- Lamb, A. *, S. Shiyake, S. Salom*, N. Havill*, M. Montgomery* and L. T. Kok* (2009.1) Japanese *Laricobius* sp. n., a promising biological control candidate for hemlock woolly adelgid. In McManus?, K. and K.W. Gottschalk (eds.) . Proceedings: 20th U.S.D.A. Interagency Research Forum on Gypsy Moth and Other Invasive Species, 2009. General Technical Report NRS-P-51: 42.
- Lamb, A*, S. Shiyake, N. Havill*, S. Salom*, and L. Kok* (2009.1) Update on *Laricobius osakensis*. HWA Biological Control Technical Committee Meeting, 13 January, Annapolis, Maryland, USA.
- Lamb, A*, S. Shiyake, S. Salom*, and L. Kok* (2009.1) *Laricobius osakensis*, a promising biocontrol candidate from Japan. 20th USDA Interagency Research Forum on Invasive Species, 13-16 January, Annapolis, Maryland, USA.
- 林成多*・初宿成彦 (2009.2) 北海道十勝地方の更新統から産出する昆虫化石. 瑞浪市化石博物館 研究報告, (35) : 101-104.
- 吉田浩史*・松本吏樹郎 (2008.1) フクイアナバチの近畿地方における採集記録. ns.54 (1) : 4-5.
- 松本吏樹郎 (2008.6) ロンドン滞在記. ns.54 (6) : 2-5, 16.
- Yoshida, T*, R. Matsumoto and K. Konishi* (2008.10-12) Review of East Asian species of *Thrybius* (Hymenoptera: Ichneumonidae: Cryptinae). Annales de la Société Entomologique de France, N.S 2008, 44 (4) : 493-502.
- 松本吏樹郎 (2008.9) 日本産クモヒメバチ 2 未記載種の寄生習性と寄主操作 (*Polysphincta*-group, Pimplinae, Ichneumonidae). 日本昆虫学会第68回大会 (香川) 講演要旨: 77.
- 松本吏樹郎 (2008.9) Life histories of two ichneumonid parasitoids of *Cyclosa octotuberculata* (Araneae), *Reclinervellus tuberculatus* (Uchida) and its new sympatric congener (Hymenoptera: Ichneumonidae: Pimplinae). 日本昆虫学会第68回大会 学会賞受賞記念講演 (香川)
- 高須賀圭三*・松本吏樹郎・大林延夫* (2008.9) オオヒメグモに寄生するマダラコブクモヒメバチ *Zatypota albicoxa* の産卵行動および産卵能力について

- (Hymenoptera, Ichneumonidae, *Polysphincta*-group)
 日本昆虫学会第68回大会(香川)講演要旨:52.
- 松本吏樹郎(2008.12)同所的に分布するゴミグモの捕食寄生者, *Reclinervellus*属2種の寄生習性と生活史(Hymenoptera: Ichneumonidae: Pimplinae) 日本昆虫学会近畿支部大会特別講演(兵庫)
- 松本吏樹郎(2008.12)日本産*Zatypota*属(Ichneumonidae, Pimplinae, *Polysphincta*-group)の幼生期と寄主. 日本昆虫学会近畿支部大会(兵庫)
- 【植物研究室】**
- 道盛正樹*・佐久間大輔・木村全邦*・芦田喜治*(2008.3)大阪府蘚苔類資料1 大阪城公園の蘚苔類. 大阪市立自然史博物館研究報告(62):13-20.
- 佐久間大輔(2008)里山環境の歴史性を読み解く. 農業及び園芸 83(1):183-189
- 佐久間大輔・和田岳(2008.4)新第5展示室「生き物のくらし」完成へ. ns. 54(4):5-7.
- 佐久間大輔(2008.5)自然史博物館の役割 地域の自然の情報拠点として:52回日本菌学会大会講演要旨集:
- 佐久間大輔(2008.5)堺市菌類レッドリスト作成のための試み:52回日本菌学会大会講演要旨集:
- 木村全邦*・佐久間大輔(2008)大阪府の蘚類 - 中島徳一郎蘚類コレクション - (附中島コレクション目録CD). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第40集.
- 佐久間大輔(2008.9)菌類の機能と生活. 菌類のふしぎ - 形とはたらきの驚異の多様性(国立科学博物館叢書9) 東海大学出版会216p
- 佐久間大輔(2008.9)昔, 堺市に見られたキノコ. ns. 54(9):7.
- 佐久間大輔(2008.12)キノコに向き合う 研究というもう一つの楽しみ方の入り口と最先端. INAX BOOKLET『考えるキノコ-摩訶不思議ワールド-』
- Fukuda, T*, A. Naiki and H. Nagamasu*. (2008.7) Pollen morphology of the genus *Skimmia* (Rutaceae) and its taxonomic implications. Journal of plant research (121): 463-471.
- 内貴章世(2008.8)植物の研究にも偉大な功績を残したダーウィン. ns. 54(8):2-6.
- 藤井伸二*・志賀 隆・金子有子*・栗林 実*・野間直彦*(2008.4)琵琶湖におけるミズヒマワリ(キク科)の侵入とその現状および駆除に関するノート. 水草研究会誌(89):9-21.
- 志賀 隆(2008.5)水草通信 淀川下流のボタンウキクサ. 日本植物分類学会ニューズレター(29):22.
- Wang, D.* , Z. Li* and T. Shiga (2008.9) Lectotypification of *Miriophyllum oguraense* Miki (Haloragaceae). Novon 18(3):395-396.
- 志賀 隆・武林周一郎*(2008.12)淀川本流沿いでアザザを発見. ns. 54(12):164-165.
- 志賀 隆・武林周一郎*(2009.1)越冬するボタンウキクサ~京都市木幡池での観察~. ns. 55(1):2-4, 12
- 志賀 隆(2009.3)絶滅危惧種シモツケコウホネ(スイレン科)の生活史-根茎成長と開花フェノロジーに注目して-. 環境科学総合研究所年報 27(別冊):1-11.
- 【地史研究室】**
- Yoshinari Kawamura*, Yoshitaka Matsubashi*, Ryohei Nakagawa* and Hiroyuki Taruno (2009) Occurrence of a suid mandible from the Pliocene Ueno Formation, Mie Prefecture, central Japan. Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (63):15-23.
- Yoshinari Kawamura* and Hiroyuki Taruno (2009) An Early Pleistocene Deer Antler from the Akashi Formation in Hyogo Prefecture, Central Japan. Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (63):25-34.
- 川端清司(2007.10)第37回特別展「地震展2008」解説書. 大阪市立自然史博物館:64pp.
- 川端清司・中条武司(2008.10)自然観察地図「活断層を歩く」版 中央構造線活断層系 金剛断層・根来断層. ns. 54(10):130-134.
- 川端清司(2008.11)「白亜紀南海地震の化石:シュードタ、キライト. ns. 54(11):150.
- 川端清司(2009.3)五里山古墳群第5次調査で出土した石棺片の石質について. 五里山古墳群第5次発掘調査報告, 東大阪市, 72-73.
- Sawada, K.* , Arai, T.* and Tsukagoshi, M. (2008.8) Compositions of resistant macromolecules in fossil dry fruits of *Liquidambar* and *Nyssa* (Pliocene, central Japan). Organic Geochemistry, 39:919-923.
- Tsukagoshi, M., Teraoka, A.* and Yamasaki, H.* (2008.8) Fruit fossils linking between Lythraceae and Trapaceae. 8th International Organization of

Paleobotany, Abstract:286.
塚腰 実 (2008.11) 昭和天皇と古植物学者・三木 茂.
昭和 (214) : 3.
塚腰 実 (2008.12) ソテツの観察. ns. 54 (12) : 2-5.

【第四紀研究室】

大阪市立自然史博物館編 (2008.4) 干潟に遊び干潟に学ぶ.
東海大学出版会. (中条武司・石井久夫:分担執筆)
石井久夫 (2008.11) 周防灘産のチリメンユキガイについて.
山口県貝類研究談話会ニュースレター (6-12) : 7.
石井久夫 (2009.2) 小難しい学芸員のやさしい小咄 カキ
の大物 4種類. ns. 55 (2) : 18.
石井久夫 (2009.3) ロンドン自然史博物館のアサリ. ns.
55 (3) : 30-32.
中条武司 (2008.4) 環境教育における堆積学の役割: 奈良・大阪を流れる大和川の例, 日本堆積学会2008年弘前
大会プログラム・講演要旨: 15.
山下翔大*・中条武司・成瀬 元*・佐藤智之*・荷福 洸*
・齋藤 有*・山口直文* (2008.4) 伊勢湾榑田川河口干
潟における堆積相の時空分布. 日本堆積学会2008年弘前
大会プログラム・講演要旨: 25-26.
三田村宗樹*・中条武司 (2008.7) 「地質の日」イベント報
告 日本地質学会近畿支部. 日本地質学会News 11
(7) : 20-21.
滝川真矢*・益田晴恵*・山崎恵美子*・宇根山綾香*・松本
興平*・中尾匡伸*・中川裕美*・中口 讓*・中条武司
(2008.9) 淀川水系における生態系に及ぼす化学成分の
影響. 2008年度日本地球化学会年会講演要旨: 167.
宇根山綾香*・中口 讓*・山崎恵美子*・滝川真矢*・松本
興平*・中尾匡伸*・中川裕美*・益田晴恵*・中条武司
(2008.9) 淀川水系における富栄養化関連物質の広域分
布と季節変動. 2008年度日本地球化学会年会講演要旨:
165.
中口 讓*・益田晴恵*・中条武司・山崎恵美子*・宇根山
綾香*・滝川真矢*・松本興平*・中尾匡伸*・中川裕美*・
淀川水系調査グループ水質班 (2008.9) プロジェクトY
淀川編 一水質班の計画と概要一. 2008年度日本地球化
学会年会講演要旨: 28.
中条武司・山下翔大* (2008.9) 小規模な海進によって形
成される海浜堆積物中の泥層: 大分県中津地域の例. 日
本地質学会第115年学術大会 (秋田) 講演要旨: 95.

Yamashita, S. *, Nakajo, T., Naruse, H. * and Sato,
T. * (2008.9) The granulometric characteristic of
sediments in a sandy tidal-flat along the Kushida
River estuary, Ise Bay, central Japan. Abstract,
7th International Conference on Tidal
Sedimentology, Qingdao, China: 126-127.

中条武司 (2008.9) 海辺で地震! さてどうする? ns. 54
(9) : 121.

川端清司・中条武司 (2008.10) 自然観察地図「活断層を
歩く」版①中央構造線活断層系 金剛断層・根来断層.
ns. 54 (10) : 130-134.

大阪市立自然史博物館 (編) (2008.10), 第37回特別展
「地震展2008」特別展解説書, 64p. (中条:分担執筆).

中条武司 (2008.11) 大阪に津波はやってくるのか? ns.
54 (11) : 146-148.

横川美和*・中条武司 (2009.1) 2008年5月10日「地質の
日」協賛行事: 大阪市立自然史博物館第25回地球科学講
演会「石油天然ガス資源をめぐる私たちの将来」報告.
堆積学研究 (67) : 131.

中条武司 (2009.2) 学会・博物館の連携と「地質の日」.
地質ニュース (654) : 32-35.

Yamashita, S. *, Nakajo, T., Naruse, H. * and Sato,
T. * (2009.1) The three-dimensional distribution of
sedimentary facies and characteristics of sediment
grain-size distribution in a sandy tidal flat
along the Kushida River estuary, Ise Bay, central
Japan. Sedimentary Geology (215) : 70-82.

VII. 各種委員・役員・非常勤講師・その他

金沢 至

日本昆虫学会評議員

日本昆虫学会電子化推進委員長

日本環境動物昆虫学会評議員

日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト編集・HP担当

大阪市立大学理学部非常勤講師「生物学実験B」

初宿成彦

日本甲虫学会運営委員

日本環境動物昆虫学会企画委員

日本鞘翅学会非常任幹事

志賀 隆

水草研究会幹事

川端清司

日本地質学会評議員・理事

地学団体研究会全国運営委員

塚腰 実

化石研究会運営委員

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学 教務部 非常勤講師「大阪の自然」を担当

中条武司

日本地質学会代議員

日本堆積学会事務局員

地学団体研究会大阪支部委員

大阪教育大学非常勤講師「地球学Ⅰ」・「地学構造論Ⅱ」

VIII. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成20年度に受け入れた外部研究者は次表のようである。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

上中央子 (2008) 花粉・種実化石からみた畿内地域における「人と植物の関係史」京都造形芸術大学大学院学位論文。

室生団体研究グループ (佐藤隆春・別所孝範・古山勝彦・茅原芳正・山本俊哉)・八尾 昭 (2008) 室生火砕流堆積物の給源火山。地球科学 (62) : 97-108。

大和大峯研究グループ (2008) 柏木氏による「大和大峯研究グループ (2007a) 論文の問題点の指摘」に答えて。地球科学 (62) : 125-129。

佐藤隆春 (2008) 二上層群を構成する溶岩の構造。地学団体研究会第62回総会 (東京) 講演要旨集 : 117。

佐藤隆春 (2008) 大滝ダム試験湛水で発生した地すべりの地質学的背景。地学教育と科学運動 (58・59) : 85-93。

佐藤隆春・富田克敏・佐藤良二 (2008) サヌカイト溶岩と揮発性成分—二上層群, 春日山安山岩溶岩の産状—。日本地質学会第115年学術大会講演要旨 : 120。

室生団体研究グループ (佐藤隆春・別所孝範・古山勝彦・茅原芳正・山本俊哉) (2008) 炭化物片を含む火砕流堆積物—植生破壊をおこした室生火砕流堆積物の初期噴

火—。日本火山学会講演予稿集 2008年度秋季大会 : 35。
佐藤隆春・富田克敏・佐藤良二 (2008) サヌカイトのナゾ (前編) 二上山のサヌカイトと石器。ns. 54 (11) : 148-149。

佐藤隆春・富田克敏・佐藤良二 (2008) サヌカイトのナゾ (後編) サヌカイトの露頭発見。ns. 54 (12) : 162-164。

佐藤隆春 (2009) 4. 3. 3 瀬戸内地域の火山活動 a. 二上層群。日本地方地質誌5 近畿地方, 日本地質学会編, 朝倉書店, 東京:274-275。

室生団体研究グループ (2009) 4. 3. 4 紀伊半島の火成活動 a. 室生火砕流堆積物。日本地方地質誌5 近畿地方, 日本地質学会編, 朝倉書店, 東京:279-280。

佐藤隆春 (2009) 4. 1. 3 新第三系 b. 瀬戸内地域 (2) 奈良県北部とその周辺 ; 二上層群。日本地方地質誌5 近畿地方, 日本地質学会編, 朝倉書店, 東京:204-205。

佐藤隆春・室生団体研究グループ (2009) 4. 1. 3 新第三系 b. 瀬戸内地域 (2) 奈良県北部とその周辺。日本地方地質誌5 近畿地方, 日本地質学会編, 朝倉書店, 東京:202-204。

Sawada, Y. (2008) Revision of the genus *Cissidium* (Coleoptera: Ptiliidae) in Japan. Taichius, Special Publication of the Japan Coleopterological Society, (2) : 101-126。

澤田義弘 (2008) 箕面の名前を冠する昆虫たち④—ミノオメクラチビゴミムシ *Trechiana nagahinis* S. Uéno. 昆虫館だより (100) : 3。

澤田義弘 (2008) 大昆虫展始まりました。昆虫館だより (101) : 2。

澤田義弘 (2008) 箕面公園のオオクワガタ。昆虫館だより (102) : 3。

澤田義弘 (2009) 箕面の名前を冠する昆虫たち⑤—ミノオクハバチ *Taxonus minomensis* Takeuchi—。昆虫館だより (103) : 2-3。

清水裕行 (2007) 大阪城公園でヒトエグモを採集。くものいと (40) : 24-25。

清水裕行 (2008) 愛知県ゴケグモ事情。蜘蛛 (41) : 31-36。

佐藤杏子・岩坪美兼・太田道人・松久 卓・鳴橋直弘 (2008) 中部地方の高山に分布するセイヨウタンポポの染色体数。植物研究雑誌 (83) : 115-120。

鳴橋直弘 (2008) アジア産キイチゴ属の分類学的ノート (2) 新品種, キミノニガイチゴ。植物地理・分類研究

(56) : 24-26.

鳴橋直弘 (2008) アジア産キイチゴ属の分類学的ノート (3) クサイチゴの一品種マヤクサイチゴの学名. 植物地理・分類研究 (56) : 27-31.

本郷美佐緒 (2009) 大阪堆積盆地における中部更新統の花粉生層序と古環境変遷. 地質学雑誌, 115:64-79.

Misao Hongo, Tomonori Naya (2008) Middle Pleistocene climate and vegetation history in Japan. The 33rd IGC International Geological Congress in Oslo, Norway Convention Centre. August, 6-14, 2008. Abstracts:250.

本郷美佐緒 (2008) 埼玉県菖蒲町における350mボーリングコアの花粉化石群集. 日本地質学会関東支部第2回研究発表会「関東地方の地質」(早稲田大学). 日本地質学会関東支部講演資料集2:64-65.

Lamb, A., S. Shiyake, S. Salom, M. Montgomery, and L. Kok (2008) Evaluation of the Japanese *Laricobius* sp. n. and other natural enemies of hemlock woolly adelgid in Japan. In B. Onken and R. Reardon [eds.], Fourth Symposium on Hemlock Woolly Adelgid in the Eastern United States. USDA Forest Service, Forest Health Enterprise Team, Hartford, Connecticut, USA: 29-34.

Shiyake, S., Y. Miyatake, M. E. Montgomery, and A. Lamb (2008) Hemlock woolly adelgid phenology and predacious beetle community on Japanese hemlocks. In B. Onken and R. Reardon [eds.], Fourth Symposium on Hemlock Woolly Adelgid in the Eastern United States. USDA Forest Service, Forest Health Enterprise Team, Hartford, Connecticut, USA: 261-266.

Lamb, A., S. Shiyake, S. Salom, N. Havill, M. Montgomery and L. T. Kok (2009) Japanese *Laricobius* sp. n., a promising biological control candidate for hemlock woolly adelgid. In McManus?, K. and K. W. Gottschalk (eds.). Proceedings: 20th U.S.D.A. Interagency Research Forum on Gypsy Moth and Other Invasive Species, 2009. General Technical Report NRS-P-51: 42.

Lamb, A., S. Shiyake, N. Havill, S. Salom, and L. Kok (2009) Update on *Laricobius osakensis*. HWA Biological Control Technical Committee Meeting, 13

January, Annapolis, Maryland, USA.

Lamb, A., A. Roberts, S. Salom. (2009) Development of an on-line database that documents predator releases and recoveries. HWA Biological Control Technical Committee Meeting, 13 January, Annapolis, Maryland, USA.

Lamb, A., S. Shiyake, S. Salom, and L. Kok (2009) *Laricobius osakensis*, a promising biocontrol candidate from Japan. 20th USDA Interagency Research Forum on Invasive Species, 13-16 January, Annapolis, Maryland, USA.

表1. 平成20年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
石田路子	外来研究員	本 人	石田 惣
市毛勝義	外来研究員	本 人	松本吏樹郎
上中央子	外来研究員	本 人	塚腰 実
岡出朋子	外来研究員	本 人	石田 惣
岡本素治	外来研究員	本 人	塚腰 実
小郷一三	外来研究員	本 人	山西良平
佐藤隆春	外来研究員	本 人	石井久夫
澤田義弘	外来研究員	本 人	初宿成彦
清水裕行	外来研究員	本 人	金沢 至
鳴橋直弘	外来研究員	本 人	内貴章世
西澤真樹子	外来研究員	本 人	和田 岳
花崎勝司	外来研究員	本 人	波戸岡清峰
林 勇夫	外来研究員	本 人	山西良平
本郷美佐緒	外来研究員	本 人	塚腰 実
前田哲弥	外来研究員	本 人	佐久間大輔
松江実千代	外来研究員	本 人	塚腰 実
松村 勲	外来研究員	本 人	山西良平
丸井英幹	外来研究員	本 人	内貴章世
道盛正樹	外来研究員	本 人	佐久間大輔
山崎俊哉	外来研究員	本 人	内貴章世
Ashley Lamb	外来研究員	本 人	初宿成彦

資料収集保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は低温燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、展示・研究活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

I. 寄贈および交換標本

■動物研究室

三重県のニホンカモシカ	2点	佐藤 隆春氏	和歌山県のウサギコウモリ	1点	麻野 浩氏
静岡県のニホンカモシカ	2点	鳥居 春巳氏	大阪市平野区のスッポン	1点	南野 博三氏
滋賀県のカワウ	1点	加藤榮里奈氏	能勢町のシカ	1点	浦野 信孝氏
兵庫県のキクガシラコウモリ他	5点	浦野 信孝氏	貝塚市のタヌキ他	6点	西澤真樹子氏
広島県のカワニナ	1点		青森県のキツネ	1点	
		西澤真樹子・北野 由崇氏			西澤真樹子・松島 烈晃氏
北海道のヒナコウモリ他	5点	浦野 信孝氏	池田市のニホンザル他	2点	富永 修氏
奈良県のコウベモグラ他	2点	河原 風花氏	兵庫県のシカ	1点	白木 茂氏
天王寺動物園のコアラ他	63点	天王寺動物園	能勢町のシカ	1点	富永 修氏
太子町のアカネズミ他	14点		奈良県のタヌキ	1点	河原 風花氏
		西澤真樹子・米澤 里美氏	四條畷市のヒミズ	1点	富永 修氏
太子町のアカネズミ他	1点		和歌山県のタヌキ	1点	矢田部典子氏
		西澤真樹子・米澤 里美氏	兵庫県のタヌキ	1点	大石 玲子氏
能勢町のコウベモグラ・シカ	2点	富永 修氏	青森県のタヌキ他	4点	西澤真樹子氏
三重県・高知県のスナガニ類	11点		兵庫県のキツネ	1点	山田 英雄氏
		木邑 聡美・野元 彰人氏	山口県のシカ胎児他	2点	北野 由崇氏
大東市のキツネ	1点	西澤真樹子氏	和歌山県のイノシシ	1点	矢田部典子氏
大阪市北区のセンダイムシクイ	1点	杉本 伸氏	兵庫県のコジュケイ	1点	山田 英雄氏
茨木市のタヌキ	1点	高田 公代氏	山口県のアオサギ	1点	北野 由崇氏
大阪市此花区のキビタキ	1点	磯貝 知香氏	泉南市の鳥	4点	
藤井寺市のタヌキ	1点	丸山健一郎氏			貝塚市立自然遊学館
堺市のタヌキ	1点	桑原 史雄氏	長野県のヒミズ	1点	荒木 一年氏
兵庫県のタヌキ	1点	藤田 宏之氏	天王寺動物園のバーバリーシープ他		
みさき公園のキリン	1点	みさき公園			15点
日本・北米・タンガニイカ湖産イシガイ類	533点	近藤 高貴氏	奈良県のイノシシ	1点	天王寺動物園
福島県のヤマカガシ	1点	藤田 宏之氏	愛媛県のタヌキ	1点	丸山健一郎氏
能勢町のヒメネズミ他	16点		豊中市の鳥	13点	藤田 宏之氏
		西澤真樹子・米澤 里美氏	西表島の鳥類	148点	熊代 直生氏
池田市のシカ	1点	今城香代子氏	八尾市のアオサギ	1点	岡村 麻生氏
枚方市のネコ	1点	吉田美千子氏	箕面市のハシボソガラス	1点	佐々木 勇氏
			大阪市鶴見区のアオバズク	1点	松井 明氏
			大阪市鶴見区のアオサギ	1点	元山 裕康氏
			オオハナインンコ	1点	中谷 憲一氏
			八尾市のトラツグミ	1点	宮脇 泰子氏
			兵庫県のアトリ・トラツグミ	2点	土井 妙子氏
			摂津市のキジバト	1点	矢吹 精氏
			富田林市のスズメ	1点	水野 直子氏
			滋賀県のコシアカツバメ	1点	松下 宏幸氏
			沖縄県のズアカアオバト	1点	乾 公正氏
			大東市のスズメ	1点	森 康貴氏
			京都府のアカショウウン	1点	井上 美紀氏
			岡山県のコチドリ	1点	中村 正巳氏
					山崎 敏子氏

資料収集保管事業

隠岐のタヒバリ	1点	幸塚 久典氏	愛媛県のタヌキ	1点	小笹 和久氏
豊中市のヒヨドリ	1点	森田 諒氏	京都府のアブラコウモリ	1点	朝井 俊亘氏
大阪市住吉区のツバメ	1点	小川 哲男氏	和歌山県のヒメネズミ	3点	白木江都子氏
兵庫県のオオミズナギドリ	1点	北垣 和也氏	静岡県のヒミズ	1点	蘆野 敬裕氏
泉佐野市のハシボンガラス	1点		枚方市のジネズミ	1点	辻 幸治氏
		貝塚市立自然遊学館	岬町のキクガシラコウモリ	1点	浦野 信孝氏
吹田市のイカル	1点	平 軍二氏	兵庫県のジネズミ	1点	森 康貴氏
高槻市のメジロ	3点	柴谷 氏	奈良県のヒミズ	1点	津田 滋氏
河南町のメジロ	1点	柴田 園江氏	京都府のシカ	1点	松下 宏幸氏
淀川のホシハジロ・オオバン	2点	松下 宏幸氏	箕面市のユビナガコウモリ他	3点	浦野 信孝氏
富田林市のハイタカ	1点	溝口とよ子氏	奈良県のマムシ	1点	河原 風花氏
和泉市のアオバト	1点	浦野 信孝氏	兵庫県のシカ	1点	柳澤 香里氏
大東市のセグロセキレイ他	3点	西畑 敬一氏	堺市・箕面市の陸貝	6点	市川 顕彦氏
大阪市此花区のムクドリ	1点	磯貝 知香氏	大分県のスナメリ他	8点	
茨木市のツグミ	1点	出来 享子氏	麻野 浩・小菅 康孝・西澤真樹子・		
和歌山県のキジバト	1点	矢田部典子氏	萩野 哲・榎田 初美・松帆真知子氏		
大阪市東住吉区のムクドリ	1点	伊藤 氏	大阪府住吉区のドブネズミ	1点	有計 真夏氏
大阪市此花区のコキンチョウ	1点	磯貝 知香氏	岸和田市のアカネズミ他	7点	
堺市のマガモ	1点	浦野 信孝氏			米澤 里美・西澤真樹子氏
和泉市のカルガモ	1点		堺市のタヌキ	1点	西澤真樹子氏
		西澤真樹子・米澤 里美氏	奈良県のヒミズ	1点	生地 孝至氏
奈良県のウグイス	1点	河原 風花氏	東京湾の魚類・ベントス	179点	
コルリ	1点				風呂田利夫・多々良有紀氏
		大阪府動物愛護畜産課	千葉県のシマヘビ他	4点	西澤真樹子氏
大東市のアオゲラ	1点	西畑 敬一氏	山口県のタヌキ他	5点	
大阪市東淀川区のハシブトガラス	1点	山崎 芳雄氏	北野 由崇・田中 歩・橋本 光郎・西澤真樹子氏		
栃木県のトウキョウダルマガエル	1点	西澤真樹子氏	河内長野市のネコ	1点	田中久美子氏
奈良県のヒミズ	1点	稲本 雄太氏	河内長野市のアカネズミ	1点	田中久美子氏
石川県のコウモリ	1点	中村 正巳氏	オーストラリアのキツネ	1点	田中 歩氏
岬町のアカウミガメ	2点		摂津市のタヌキ	1点	
		大阪府環境農林水産総合研究所水産技術センター			西澤真樹子・松浦 宜弘氏
大阪府のハクビシン	2点	石井 亘氏	岡山県のヌートリア	1点	山田 英雄氏
長居のネコ	1点	米澤 里美氏	埼玉県のアライグマ	1点	
貝塚市のタヌキ	1点	西澤真樹子氏			藤田 宏之・石井 克彦氏
奈良県のタヌキ	1点	前田 みさ氏	奈良県のニホンジカ	1点	前田 一郎氏
山口県のタヌキ	1点	橋本 順子氏	高石市のコウベモグラ	1点	白石 卓也氏
徳島県のタヌキ	1点	藤田 宏之氏	島本町のジネズミ他	7点	
兵庫県のタヌキ	1点	山田 英雄氏			米澤 里美・松浦 宜弘・西澤真樹子氏
滋賀県のハナダカダンゴムシ	3点	石田 未基氏	枚方市のアブラコウモリ	1点	村島 祐希氏
広島県のキツネ	1点	北野 由崇氏	<i>Erichthonius convexus</i> 副模式標本他海岸動物		
和歌山県のカニ・魚	3点	石田 幸子氏			8点 有山 啓之氏
兵庫県のアブラコウモリ	1点	高橋 良寛氏	島根県他産棘皮動物	59点	幸塚 久典氏

資料収集保管事業

青森県のカラスガイ	1点	奈良県のモズ他	3点	日比 伸子氏
	松島 烈晃・西澤真樹子氏	兵庫県の鳥・ネズミ	4点	大石 玲子氏
兵庫県のスミスネズミ他	30点	河内長野市の鳥	7点	河内長野野鳥の会
堺市のタヌキ	1点	西澤真樹子氏		
滋賀県のシカ	1点	清野 紘典氏	1点	久保 博重氏
和歌山県のミンククジラ	1点	浦野 信孝氏	1点	藤田 美美氏
泉佐野市のスナメリ	1点		1点	今城香代子氏
	大阪府環境農林水産総合研究所水産技術センター	藤井寺市のイタチ	1点	建家 和子氏
高槻市のネコ	1点	高田みちよ氏	1点	森田 邦利氏
兵庫県のイタチ	1点	米澤 里美氏	1点	高田 公代氏
門真市のヒメリンゴマイマイ	10点	神田 哲久氏	1点	廣野 光子氏
韓国セマングムの貝類	21点	有山 啓之氏	1点	西畑 敬一氏
長居のツグミ	1点	吉田 明氏	1点	吉田美千子氏
箕面市のサル	1点	稲本 雄太氏	1点	宮武 頼夫氏
箕面市のシカ	1点	浦野 信孝氏	1点	石田 幸子氏
奈良県のヒミズ	2点	前田 露氏	1点	渡部 哲也氏
北海道のオオアシトガリネズミ	1点	黒澤 徹也氏	5点	磯貝 知香氏
<i>Sandersiella kikuchii</i> 副模式標本	1点	下村 通誉氏	1点	小林 春平氏
奈良県のヌートリア	1点	河原 風花氏	1点	中谷 憲一氏
大東市のタヌキ	1点	西畑 敬一氏	1点	澤田 義弘氏
貝塚市のタヌキ	1点	三好 輝夫氏	1点	杉之原専司氏
岸和田市のタヌキ	2点		1点	麻野 浩氏
	西澤真樹子・榎本 拓司氏	河内長野市のイカル	1点	西川 喜朗氏
奈良県のタヌキ	2点	河原 風花氏	3点	道盛 正樹氏
河内長野市のアライグマ他	5点	石井 亘氏	1点	橋本 順子氏
北海道のエゾシカ	1点	疋田 英子氏	1点	岩崎 佳子氏
奈良県のイノシシ	1点	前田 露氏	2点	増田 静子氏
兵庫県のタヌキ	1点	山田 智大氏	1点	犬飼みち子氏
奈良県のアオバト	1点	大久保泰和氏	1点	矢田部典子氏
池田市のアオバズク	1点	石井 亘氏	1点	橘 麻紀乃氏
枚方市のフクロウ	1点	稲森 郁子氏	1点	小笠原鈴代氏
交野市のヤマドリ	1点	渡辺晋一郎氏	3点	
高槻市のヒミズ	1点	富永 修氏		児玉 舜・児玉 開氏
和歌山県のアオサギ	1点		12点	
	奥田 幸男・奥田 幸江氏	埼玉県のアズマモグラ他		藤田 宏之・石井 克彦氏
羽曳野市のヒドリガモ	1点	麻野 浩氏		1点
奈良県のツミ	1点	前田 露氏		前田 露氏
八尾市のアカハラ他	2点	富永 修氏		河原 風花氏
大阪市住之江区のササゴイ	1点	平尾麻利子氏		1点
東大阪市のメジロ・ムシクイ	2点	橋本 正弘氏		新保 宏志氏
熊取町のウグイス	1点	大村 尚子氏		1点
奈良県のスズメ	1点	前田 露氏		北垣 和也氏
		兵庫県のネコ		2点
		大石 陽・大石 玲子氏		大石 玲子氏
		大石 玲子氏		1点
		兵庫県のイタチ		1点
		河内長野市の鳥		7点
		河内長野野鳥の会		
		久保 博重氏		1点
		藤田 美美氏		1点
		今城香代子氏		1点
		建家 和子氏		1点
		森田 邦利氏		1点
		高田 公代氏		1点
		廣野 光子氏		1点
		西畑 敬一氏		1点
		吉田美千子氏		1点
		宮武 頼夫氏		1点
		石田 幸子氏		1点
		渡部 哲也氏		1点
		磯貝 知香氏		5点
		小林 春平氏		1点
		中谷 憲一氏		1点
		澤田 義弘氏		1点
		杉之原専司氏		1点
		麻野 浩氏		1点
		西川 喜朗氏		3点
		道盛 正樹氏		1点
		橋本 順子氏		1点
		岩崎 佳子氏		1点
		増田 静子氏		2点
		犬飼みち子氏		1点
		矢田部典子氏		1点
		橘 麻紀乃氏		1点
		小笠原鈴代氏		1点
				3点
				児玉 舜・児玉 開氏
				12点
				藤田 宏之・石井 克彦氏
				1点
				前田 露氏
				河原 風花氏
				1点
				新保 宏志氏
				1点
				北垣 和也氏
				2点
				大石 陽・大石 玲子氏
				大石 玲子氏

淀川のネズミ他	9点	松浦 宜弘氏	岬町のアオジ	1点	西澤真樹子氏
奈良県のタヌキ	1点	河原 風花氏	岬町のアカネズミ	11点	
鳥取県のヒミズ	1点	北野 俊二氏			西澤真樹子・米澤 里美・松浦 宜弘氏
奈良県のイタチ	1点	前田 蒔氏	神奈川県のスウシチョウ	1点	重信 知宏氏
和歌山県のイタチ	1点	矢田部典子氏	等脚類副模式標本	18点	布村 昇氏
奈良県のイタチ他	2点	河原 風花氏	熊本県のハツカネズミ	1点	渡部 哲也氏
奈良県のタヌキ	1点	河原 風花氏	沖縄県のウミガメ	1点	小菅 桂子氏
山口県のノウサギ	1点	田原 義寛氏	奈良県のアカネズミ	1点	河原 風花氏
山口県のイタチ	1点	橋本 順子氏	和歌山県のヒミズ	1点	麻野 浩氏
奈良県のアライグマ	1点	河原 風花氏	河内長野市のテン	1点	小西 茂氏
大阪市東住吉区のドブネズミ	1点	清水 純氏	四條畷市のキツネ	1点	西畑 敬一氏
福島県のタヌキ	1点	藤田 宏之氏	東京都のキジバト	1点	樋口 陽子氏
奈良県のアカネズミ	1点	河原 風花氏	茨木市のヒヨドリ	1点	川合 あき氏
奈良県のネコ	1点	河原 和子氏	富山県のクマネズミ	1点	河野 芳美氏
長野県のシカ	1点	小林 昌和氏	和歌山県のコキクガシラコウモリ	1点	
ロシアのタイリクモモンガ	2点	谷 陽子氏			麻野 浩・有本 井智氏
三重県のノウサギ	1点		兵庫県のイノシシ他	3点	大石 玲子氏
		西澤真樹子・河原 風花氏	外国産フジツボ類	5点	大谷 道夫氏
滋賀県のノウサギ	1点	乾 久子氏	端脚類模式標本他	77点	有山 隆之氏
高知県のノウサギ	1点	藤田 宏之氏	堀越増興氏別刷	67点	西宮市貝類館
奈良県のテン	1点	河原 和子氏	大東市のタヌキ	1点	西畑 敬一氏
奈良県のイタチ	1点	富永 修氏	兵庫県のキクガシラコウモリ他	3点	浦野 信孝氏
京都府のテン	1点	吉田 信栄氏	近木川のケアシヒライソガニ	2点	山田 浩二氏
泉佐野市のノウサギ	1点		奈良県のタヌキ	1点	前田 一郎氏
		松下 宏幸・松浦 宜弘・西澤真樹子氏	青森県のヤマアカガエル他	4点	西澤真樹子氏
東大阪市のアブラコウモリ	1点	小笠原鈴代氏	貝塚市のイノシシ他	7点	
河内長野市のヒミズ	1点	小西 茂氏			貝塚市立自然遊学館
大阪市生野区のクマネズミ	1点	石川 陽子氏	大阪湾産貝類標本	2121点	岡村親一郎氏
枚方市のコウベモグラ	1点	南 茂夫氏			
河内長野市のコウベモグラ	1点	岩崎 佳子氏	■昆虫研究室		
四條畷市のコウベモグラ	1点	西畑 敬一氏	ユーカリハムシ	3点	柴田 信弘氏
高槻市のシマヘビ	1点	西澤真樹子氏	フィリピン産コガネムシタイプシリーズ	6点	松本 武氏
小笠原父島のオガサワラヤモリ	1点	小野寺 歩氏	日本産ベニボタル (含パラタイプ)	6点	松田 潔氏
奈良県のジネズミ他	5点	河原 風花氏	千葉産カイガラムシパラタイプ	4点	田中 宏卓氏
奈良県のアカネズミ他	2点	河原 風花氏	国内、海外産甲虫	8点	木下總一郎氏
大阪市北区のドブネズミ	1点	米澤 里美氏	ハネカクシ科タイプ標本	18点	林 靖彦氏
奈良県のタヌキ	1点	前田 蒔氏	南アルプス産ダイモンテントウ	2点	野村 英世氏
奈良県のタヌキ	1点	前田 一郎氏	ハネカクシ科タイプシリーズ	10点	林 靖彦氏
長居のウサギ	1点		近畿産昆虫	96点	市川 顕彦氏
		麻野 浩・明神 幸樹・池田 拓未・	箕面市・神戸市産昆虫	199点	大宮 文彦氏
		川原 巧人・栗原 睦典・前波 翔悟氏	尼崎市産昆虫	207点	大宮 文彦氏
奈良県のトラツグミ	1点	乾 喜宏氏	西宮市産昆虫	179点	大宮 文彦氏

資料収集保管事業

西宮市産昆虫	138点	大宮 文彦氏
国内、海外産テントウムシ	11点	野村 英世氏
カミキリコレクション	5000点	廣田 嘉正氏
スマトラ産コガネムシホロタイプ	1点	松本 武氏
大阪市内産ヒラズゲンセイ	1点	東田辺小学校
スジヒメガムシ	3点	

ロシア科学アカデミー極東支部生物学土壌学研究所
タカネルリクワガタパラタイプ 2点 井村 有希氏

■植物研究室

寄贈および交換(*) 標本

近畿地方産植物	300点	瀬戸 剛氏
近畿地方産植物	593点	

大本花明山植物園*

日本産植物	160点	
		兵庫県立人と自然の博物館*

日本産植物	30点	織田 次郎氏
-------	-----	--------

日本産植物	150点	小林 禎樹氏
-------	------	--------

日本産植物	187点	平野 弘二氏
-------	------	--------

滋賀県産植物	1500点	滋賀県立大学
--------	-------	--------

日本産植物	500点	
		高知県立牧野植物園*

■第四紀研究室

大阪市内ボーリング資料	11件	都市整備局
-------------	-----	-------

II. 館員による資料収集

■動物研究室

担当学芸員は波戸岡…H、和田…W、石田…I と略記する。

淀川流域(大阪府、京都府)で淡水魚類を採集

(5月、6月、8月、9月、10月、11月、2月、H)

和歌山県で海産魚類を採集 (8月、H)

大阪府南部沿岸で海産魚類を採集 (4月、5月、6月、H)

淀川水系で淡水・汽水産無脊椎動物を採集 (4~3月、I)

大阪府岬町で海産無脊椎動物を採集 (4~6月、I)

大阪市内淀川区で海産無脊椎動物を採集 (6月、I)

大分県・福岡県周防灘沿岸で海産無脊椎動物を採集

(4月、5月、I)

徳島県阿南市でザトウクジラ(漂着個体)を採集

(4月、I, W)

愛媛県石鎚山周辺で陸産・淡水産無脊椎動物を採集

(5月、6月、8月、I)

和歌山県白浜町で海産無脊椎動物を採集 (6月、I)

和歌山県由良町で海産無脊椎動物を採集 (8月、I)

大阪府岸和田市春木港で海産無脊椎動物(漁業混獲物)を採集 (10月、I)

大阪市港区で海産無脊椎動物を採集 (2月、I)

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員(金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

4月2日・23日 福井県あわら市 カサアブラムシ(S)

4月6日 大阪市大和川河川敷 昆虫相調査(M)

4月6日 奈良市若草山 カサアブラムシ(S)

4月7日 奈良県大和郡山市
マイマイツツハナバチ(M)

4月9日 奈良県大和郡山市
マイマイツツハナバチ(M)

4月12日 奈良県大和郡山市
マイマイツツハナバチ(M)

4月13日 奈良県曽爾村
昆虫全般(S):友の会昆虫合宿下見

4月14日 京都市・京大演習林
カサアブラムシ(S)

4月17日 奈良県大和郡山市
クサアリモドキ調査(M)

4月21・26日 兵庫県川西市猪名川・豊能町初谷
河川の甲虫(S)

4月26日 奈良県大和郡山市
クサアリモドキ調査(M)

4月27日 高槻市三島江 レンゲ畑の昆虫(M)

4月28日 愛媛県久万高原町 昆虫類(M)

4月30日 奈良県大和郡山市
マイマイツツハナバチ(M)

5月2・3日 神奈川県茅ヶ崎市・静岡県沼津市
カサアブラムシ(S)

5月7日 大阪市大阪城公園 昆虫一般(M)

5月7日 京都府八幡市三川合流 昆虫一般(M)

5月7日 能勢妙見山・池田市・箕面市
カサアブラムシ・河川の甲虫(S)

5月12日 京都府宇治市黒土 昆虫一般(M)

5月13日 大阪市大阪城公園 昆虫一般(M)

5月14日 東大阪市枚岡公園 昆虫全般(S)

5月16日 奈良県大和郡山市

資料収集保管事業

	マイマイツツハナバチ (M)	8月12日	奈良県大和郡山市	昆虫一般 (M)	
5月18日	奈良県大和郡山市	昆虫一般 (M)	8月13日	箕面市	セミのぬけがら行事 (S)
5月18日	豊能町～箕面市止々呂美・余野川	8月31日	奈良県大和郡山市	昆虫一般 (M)	
	河川の甲虫 (S)	9月7日	西区鞠公園	セミのぬけがら (S, M)	
5月21日	京都市左京区八丁平	9月9日	天王寺公園・大阪城公園	セミのぬけがら (S)	
	昆虫全般 (S) : 行事下見				
5月23～29日	屋久島・霧島・石鎚・剣山	9月10日	高槻市水無瀬～枚方大橋 (淀川河川敷)	昆虫一般 (M)	
	カサアブラムシ (S)				
5月26日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類 (M)	9月21日	池田市五月山	昆虫一般 (M)
5月31～6月2日			9月28日	泉南市男里川河口	昆虫一般 (M)
	愛媛県石鎚山	昆虫一般 (M)	9月28日	高槻市水無瀬～枚方大橋 (淀川河川敷)	昆虫一般 (M)
6月1～5日	長野県入笠山・山梨県御正体山・富士吉田市	カサアブラムシ (S)	10月2日	池田市五月山	昆虫一般 (M)
		カサアブラムシ (S)	10月2日・12日	高槻市枚方大橋～東淀川区豊里	淀川の昆虫 (S)
6月6日	大台ヶ原	カサアブラムシ (S)	10月4日・5日	高槻市原～摂津峡下の口	河川の昆虫 (S)
6月10日	枚方市～旭区城北公園の淀川左岸	昆虫一般 (K)	10月9日	奈良県大和郡山市	昆虫一般 (M)
6月15日	旭区城北公園・淀川区西中島淀川	トンボ類 (K)	10月10日	奈良県大和郡山市	昆虫一般 (M)
		カサアブラムシ (S)	10月13日	藤井寺市船橋町 (石川河川敷)	バッタ (K, M)
6月10～16日	仙台・吾妻山・日光・成田	昆虫一般 : 友の会昆虫合宿	10月14～19日	長野県乗鞍高原・志賀高原・岩手県八幡平・青森県八甲田山	カサアブラムシ (S)
6月21・22日	奈良県曾爾	昆虫一般 (M)	10月27日・11月2日	能勢町妙見口	トンボ類 (K)
6月22日	大阪市長居	昆虫一般 (M)	10月27～30日	北海道幌延町	昆虫化石 (S)
7月3・5日	東大阪市枚岡公園	チョウ・ガ類 (M)	11月3日	兵庫県猪名川町多田銀山	昆虫一般 (M)
7月9日	滋賀県金糞岳・余呉町・伊吹山	セミ・甲虫類ほか (S)	11月5日	福井県あわら市	カサアブラムシ (S)
7月12日	奈良県奈良市奈良公園	ヒメハルゼミ (S, M)	11月9日	守口市庭窪わんど	友の会秋祭り (S)
7月14日	奈良県東吉野村高見山	昆虫一般 (M)	11月11日	東淀川区豊里～西淀川区矢倉	淀川の昆虫 (S)
7月16日	三重県御在所岳	セミ・甲虫類ほか (S)	11月20・21日	徳島県雲辺寺・高知県土佐山田町	カサアブラムシ (S)
7月23日	比良山びわ湖バレイ	セミ・甲虫類ほか (S)	11月26～30日	沖縄県沖縄本島国頭村	昆虫一般 (M)
7月28日	茨木市	セミ・河川の甲虫など (S)	12月11日	滋賀県高島市	湿地の甲虫類 (S)
7月26～27日	愛媛県石鎚山	昆虫一般 (M)	12月23日	奈良県大和郡山市	越冬昆虫 (M)
7月27日	能勢町	セミ・河川の甲虫など (S)	1月5日	高槻市鶴殿	越冬昆虫 (M)
7月25日	箕面市余野川	昆虫一般 (M)	1月18日	高槻市鶴殿	越冬昆虫 (M)
7月30日	箕面・能勢	セミ・河川の甲虫など (S)	2月1日	泉佐野市犬鳴溪谷	越冬昆虫 (M)
8月2日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)	2月4日・20日	和泉市光明池	昆虫化石 (S)
8月2日・10日	住之江区住吉公園	昆虫観察会 (S)	2月14日	高槻市鶴殿	越冬昆虫 (M)
8月3日	西淀川区福～東淀川区柴島	淀川の甲虫 (S)	3月2日	池田市五月山	越冬昆虫 (M)
8月8～10日	愛媛県石鎚山	昆虫一般 (M)			

資料収集保管事業

3月12日	京都市京大上賀茂試験地 カサアブラムシ (S)	7月26日～27日	栃木県佐野市、真岡市、日光市 コウホネ属 (ST)
3月13日	滋賀県彦根市 昆虫化石 (S)	7月28日	兵庫県三田市、豊岡市 アカウキクサ科 (ST)
3月16日	宮崎県小林市 越冬昆虫 (M)	7月28日	大阪府高槻市神峰山寺 菌類一般 (SD)
3月18日	鹿児島県さつま町紫尾山 越冬昆虫 (M)	7月30日	大阪府池田市 植物一般 (ST)
■植物研究室		8月3日	大阪府高槻市本山寺 菌類一般 (SD)
調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、佐久間…SD、内貴…N、志賀…STと略記する。			
4月1日	大阪市東住吉区、平野区 植物一般 (N)	8月8日～10日	愛媛県石鎚山周辺 植物一般 (ST)
4月13日	京都府京都市、大阪府枚方市 水生植物 (ST)	8月18日	大阪府守口市、大阪市旭区 水生植物 (ST)
4月18日	京都府京都市 絶滅危惧植物 (N)	8月25日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、 守口市 水生植物 (ST)
4月20日	大阪府高槻市 水生植物 (ST)	9月1日	大阪府豊能町、寝屋川市 水生植物 (ST)
4月23日	大阪府高槻市 植物一般 (SD・N・ST)	9月1日～5日	鹿児島県熊毛郡屋久島町 植物一般 (N)
5月1日	大阪府寝屋川市 水生植物 (ST)	9月4日	大阪府松原市、奈良県橿原市、桜井市 水生植物 (ST)
5月14日	京都府八幡市 植物一般 (ST)	9月7日～9日	広島県世羅町、岡山県佐伯町、岡山県倉敷市、 兵庫県三田市 コウホネ属 (ST)
5月17日	寝屋川市 水生植物 (ST)	9月10日	京都府大山崎町、大阪府島本町、高槻市 植物一般 (ST)
5月18日	京都府京都市、大阪府枚方市 水生植物 (ST)	9月14日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、 守口市、大阪市旭区 水生植物 (ST)
5月21日	滋賀県大津市、京都府京都市 植物一般 (N・ST)	9月16日～18日	栃木県佐野市、真岡市、日光市 コウホネ属 (ST)
5月27日	大阪府豊能町、寝屋川市 水生植物 (ST)	9月22日～24日	新潟県上越市 水生植物 (ST)
5月28日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、 守口市、大阪市旭区 水生植物 (ST)	9月23日	奈良県川上村 菌類一般 (SD)
5月31日～6月2日	愛媛県石鎚山周辺 植物一般 (ST)	9月25、28日	大阪府堺市鉢ヶ峯 菌類一般 (SD)
6月10日	大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪 市旭区 植物一般 (ST)	10月2日	大阪府高槻市、摂津市 水生植物 (ST)
6月11日	奈良県川上村 菌類一般 (SD)	10月3日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、 守口市、大阪市旭区 水生植物 (ST)
6月14日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、 守口市、大阪市旭区 水生植物 (ST)	10月5日	大阪府泉佐野市犬鳴山 植物一般 (N)
6月22～23日	奈良県川上村 菌類一般 (SD)	10月6日～7日	奈良県十津川村、和歌山県新宮市 植物一般 (N)
6月22日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、 守口市 水生植物 (ST)	10月8日	大阪府貝塚市 植物一般 (SD, N, ST)
6月25～26日	京都府木津市 菌類一般 (SD)	10月15日～16日	高知県高知市、仁淀川町、芸西村 植物一般 (N)
7月6日	奈良県橿原村 菌類一般 (SD)	10月17日	大阪府豊中市 水生植物 (ST)
7月16日～18日	広島県世羅町、岡山県佐伯町、岡山県倉敷市、 兵庫県三田市 コウホネ属 (ST)	10月19日	大阪府守口市、大阪市旭区 水生植物 (ST)
7月22日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、 守口市、大阪市旭区 水生植物 (ST)	10月29日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市 水生植物 (ST)

10月29～30日	奈良県上北山村大台ヶ原		12月21日	兵庫県神戸市	
		蘚苔類一般 (SD)			神戸層群植物化石 (G)
11月6日	大阪府寝屋川市	外来植物 (ST)	12月28日	堺市・和泉市	光明池
11月9日	大阪府守口市	水生植物 (ST)			大阪層群植物化石 (G)
11月12日	大阪府摂津市、島本町	水生植物 (ST)	2月4日	堺市・和泉市	光明池
11月23日	大阪府守口市、大阪市旭区				大阪層群植物化石 (G)
		水生植物 (ST)	2月22日	堺市・和泉市	
11月23日～12月15日					大阪層群植物化石 (G)
	ミャンマー連邦	植物一般 (N)	3月3日	滋賀県湖南市野洲川	
11月29日	大阪府豊能町、寝屋川市				古琵琶湖層群植物化石 (G)
		水生植物 (ST)	3月13～15日	熊本県八代市・天草市	
12月3日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生植物 (ST)			中生代放散虫化石・岩石 (K)
12月8日	岡山県佐伯町、兵庫県三田市		3月25日～3月27日		
		コウホネ属 (ST)		京都府宮津市	新生代植物化石 (G)
12月9日～10日	栃木県佐野市、真岡市、日光市		■第四紀研究室		
		コウホネ属 (ST)	担当学芸員名は石井久夫…IH、石井陽子…IY、中条武司…Nと略記する。		
12月20日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生植物 (ST)	5月9日	大分県姫島	岩石 (IH, N)
1月17日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生植物 (ST)	5月13日	和泉市・岸和田市	
2月14日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生植物 (ST)			大阪層群火山灰試料 (IY)
3月29日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生植物 (ST)	5月18日	和泉市	大阪層群火山灰試料 (IY)
■地史研究室			5月26日	能勢町	現生貝類 (IH)
担当者名	樽野…T、川端…K、塚腰…Gと略記する。		5月26日	長野県塩尻市	第四紀火山灰試料 (IY)
4月9・10日	徳島県阿南市那波江	野乃島	6月26日	福井市	現生貝類 (IH)
		ザトウクジラ (T)	6月27日	富山市八尾町	中新世化石貝類 (IH)
5月26日	千葉県館山市	津波堆積物資料 (K)	8月14日	奈良県生駒市	大阪層群火山灰試料 (IY)
5月31日～6月1日	愛媛県四国中央市・久万高原町		9月21日	交野市	現生貝類 (IH)
		マントル捕獲岩、始新世植物化石 (K)	11月13日・12月6日		
6月3日	兵庫県洲本市由良	成ヶ島		和泉市	大阪層群火山灰試料 (IY)
		クジラ類 (T)	2009年1月20日	堺市	大阪層群火山灰試料 (IY)
8月8日～10日	愛媛県四国中央市・久万高原町		2009年2月4日	和泉市	大阪層群火山灰試料 (IY)
		エクロジャイト、始新世植物化石 (K)	Ⅲ. 業務委託による収集		
11月3日	兵庫県神戸市	神戸層群植物化石 (G)	業務名：淀川産プランクトン（二枚貝グロキディウム幼生）調査業務		
11月25日	東大阪市上石切町	生駒山	業務概要：淀川のワンド内部及び隣接する本流域でイシガイ科貝類グロキディウム幼生を収集し、環境ごとの分布状況を調査する。また、イシガイ幼生のオオクチバス・ブルーギルに対する宿主適合性を室内感染実験により検証する。		
		斑れい岩 (T)	調査水域：淀川城北ワンドおよび赤川ワンド		
12月3日	中華人民共和国遼寧省				
		石炭系本溪層石灰岩 (T)			

資料収集保管事業

調査時期：2008年6月～7月

IV. 資料数

■動物研究室（平成20年度末）

海綿動物	123点
刺胞動物・有櫛動物	674点
扁形・紐形動物	299点
触手動物	135点
環形動物	5,424点
甲殻類	12,268点
軟体動物	31,048点
棘皮動物	2,565点
原索動物	446点
その他無脊椎動物	993点
魚類	35,290点
両生類	21,940点
爬虫類	7,823点
鳥類	6,370点
哺乳類	2,012点
(計)	127,410点

■昆虫研究室（平成20年度末、未登録標本を含む）

日本産	
カワゲラ目	41
カゲロウ目	10,152
トンボ目	17,751
カマキリ目	385
直翅目	11,744
ナナフシ目	452
ハサミムシ目	511
ガロアムシ目	98
ゴキブリ目	479
シロアリ目	92
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類（カメムシなど）	13,813
異翅類（セミなど）	28,267
脈翅目	1,489
シリアゲムシ目	1652
トビケラ目	2,164

蛾（ガ）	32,257
蝶（チョウ）	60,207
甲虫目	286,521
ハエ目	43,594
ハチ目	43,269
その他の昆虫（各目）	16,974
クモなど	16,402
(計)	589,100

外国産	
蝶（チョウ）	81,846
蛾（ガ）	7,725
ハチ目	4,940
ハエ目	3,123
甲虫	123,152
脈翅目	51
異翅類（セミなど）	2,034
同翅類（カメムシなど）	5,998
直翅型昆虫	3,206
トンボ目	1,298
カワゲラ目	66
その他（各目）	3,116
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143
クモなど	1576
(計)	262,919

■植物研究室（平成20年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	256,271
蘚類標本	35,920
苔類標本	23,230
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	7,120
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
(計)	344,728

■地史研究室（平成20年度末、登録済標本数）

岩石	1,275点
鉱物	2,513点
脊椎動物化石	1,515点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点
古生代植物化石	185点
中生代植物化石	367点
第三紀植物化石	3,741点
（計）	32,032点

■第四紀研究室（平成20年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941(種)
現生シダ植物胞子	362(種)
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,594(件)
（計）	36,578点(件・種)

V. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センタに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への応対に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。そのような条件の中でも、コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えている。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成20年度（2008年度）も、新しく受け入れたものについて引き続きおこなっている。

平成20年度中にデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、272部で、平成20年度末現在の入力済み収蔵数は12,196部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成20年度に3,182冊、平成20年度末現在の累計154,661冊である。

1. 個人・機関からの受贈（登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略）

●個人：梅原 徹、青木正博、久保田信、吉富博之、大場秀章、中条武司、葉山恵津子、森岡秀人、横井隆幸、井上 清、浅見 卓、小俣軍平、中 九兵衛、初宿成彦、今給黎靖夫、河合正人、岸川禮子、塚腰 実、古市景一、海地節雄、吉田 勝、虞 国躍、横山礼子、西 永奨、富田由起夫、

●民間団体、出版社、企業など：ジャングルようちえん、ため池の自然研究会、東海大学出版会、(株)プリント、Almaty (Russia)、華飲み会（高桑正敏さんの還暦と退官を祝う会）、WWFジャパン（世界自然保護基金ジャパン）、風樹社、日本変形菌研究会、小学館、隠岐自然倶楽部、LIPI Press (Indonesia)、サンライズ出版、シップ・アンド・オーシャン財団海洋政策研究所、

●政府機関及び自治体および関連団体など：環境省、国立教育政策研究所、香川県環境保健研究センター、岸和田市環境部環境保全課、大阪市ゆとりとみどり振興局、鈴鹿市環境部環境政策課、多賀の自然と文化の館、奈良県くらし創造部景観・環境局自然環境課、

●大学、研究所など：追手門学院、「野生鳥類の大量死の原因となり得る病原体に関するデータベースの構築」酪農学園大学班、Institute of Geology and Mineral Exploration LIBRARY (Greece)、山梨県環境科学研究所、African insect s.r.o. (Czech Republic)、北海道大学総合博物館教育GP、広島大学理学部附属宮島自然植物実験所、日本直翅類学会、北大阪ミュージアム・ネットワーク実行委員会

2. 購入等によるもの

●図書購入費による購入（登録済みの分のみ）

平成20年度 49冊

●消耗品費による購入

国内雑誌 科学など 9誌

資料収集保管事業

外国雑誌 Copeiaなど8誌

[平成20年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、生物科学、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋。

外国：Copeia, Curator, Taxon, Evolution, Pacific Science, Systematic Biology, Geological Magazine, Journal of Paleontology

●学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会（日本応用動物昆虫学会誌、Applied Entomology and Zoology）

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生態学会（日本生態学会誌）

日本生物地理学会（日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本魚類学会（魚類学雑誌）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（藻類）

日本陸水学会（陸水学雑誌）

日本地質学会（地質学雑誌）

日本第四紀学会（第四紀研究）

日本古生物学会（Paleontological Research）

日本地学研究会（地学研究）

日本博物館協会（博物館研究）

全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成20年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、3,182冊である。

■研究報告など出版物の配布

2008年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告62号	477ヶ所	485冊	443ヶ所	446冊
自然史研究	3巻2号, 3巻7号, 3巻8号, 3巻9号			
	357ヶ所	364冊	188ヶ所	191冊
収蔵資料目録	第36集、第38集、第40集			
	239ヶ所	246冊	55ヶ所	56冊
展示解説	第37回特別展解説書、ミニガイド13			
	269ヶ所	277冊		
館報 32号	645ヶ所	653冊	12ヶ所	12部

逡送便による部数は数えていない。

展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列がこれを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第1～5展示室があり、平成13年4月にオープンした「花と緑と自然の情報センター（略称；情報センター）」1階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター2階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかわかってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということをも、象徴的に展示している。

第1展示室「身近な自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを述べている。第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示している。締めくくりの第5展示室では、「生き物のくらし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活と、どのようにつながって、どんな環境でくらししているのかを、展示している。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという、市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コー

ナーが、情報検索コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

(1) 当館が主催した特別展

■第37回特別展「地震展2008」

私たちが暮らす日本列島は、世界で最も地震活動が活発な地域であり、いくどとなく地震の被害を受けてきた。大阪をはじめ近畿もその例外ではなく、1946年12月の昭和南海地震、1995年1月の「兵庫県南部地震＝阪神淡路大震災」では、甚大な被害を受けた。また、西日本は「地震の活動期」に入ったと考えられており、この地震活動期は、近い将来に紀伊半島沖の南海トラフで起こる次の「南海・東南海地震」まで続くと考えられている。

このように日本で暮らす以上、地震の危険性から目を背けることはできない。そして、大阪の地形や自然を理解する上で、地震をはじめとする地学的な現象を知ることでもまた欠かせない。

そこで本特別展では、地震とは何か、どうして日本では地震が多いのかといった基本的なことから、大阪周辺の活断層の分布や動き、今後数十年のうちに起こる可能性が高い次の南海・東南海地震について、科学的にどこまでわかってきたかということを中心に紹介した。

主な展示物は活断層トレンチ調査のはぎ取り標本や地震計、地震に関連した岩石などで、さらに江戸時代の地震被害に関わる瓦版や「地震鯰絵」、南海地震震源断層を調べる調査船「ちきゅう」の模型等を紹介するとともに、地震のシミュレーション画像などを用いて理解を助けた。

●会 期：平成20年10月25日(土)～12月7日(日) (38日間)

●会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

●主 催：大阪市立自然史博物館、特定非営利活動法人大阪自然史センター

●後 援：大阪府、大阪府教育委員会

●入場料：大人400円、高校生・大学生300円（30人以上団体割引あり）

本館（常設展）入館料（大人300円、高大生200円）とのセット料金は、大人600円、高大生400円。中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。

●展示構成

序 章 ようこそ地震展へ 阪神・淡路大震災

第1部 地震の基礎

第2部 活断層で起きる地震

第3部 地震で何が起きるのか？

第4部 南海地震

第5部 繰り返す地震

第6部 地震の被害を軽くするために

第7部 地震で学ぶ地学

関連行事：

特別展記念講演会

「スロー地震とは何か 巨大地震予知の可能性をさぐる」

日 時：11月2日（日）午後2時～午後4時

会 場：自然史博物館 講堂

講 師：川崎一朗氏（京都大学防災研究所・地震予知研究センター教授）

参加者：90名

「地震考古学から21世紀の巨大地震を考える」

日 時：11月29日（土）午後2時～午後4時

会 場：自然史博物館 講堂

講 師：寒川 旭氏（独立行政法人 産業技術総合研究所 招聘研究員）

参加者：122名

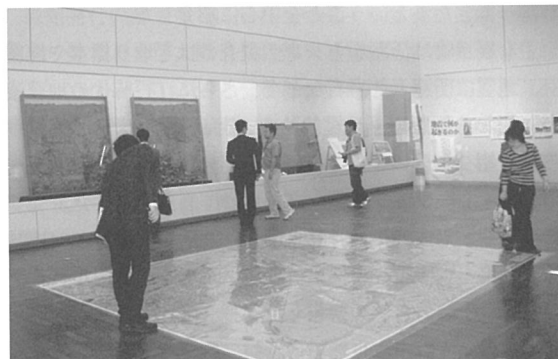


図1. 特別展「地震展2008」のようす

自然史オープンセミナー

「地震－1. 日本列島のおいたちと地震」

日 時：10月4日（土）午後3時～午後4時30分

場 所：自然史博物館 集会室

講 師：川端清司学芸員（地史研究室）

参加者：46名

「地震－2. 大阪の地盤と地震」

日 時：11月1日（土）午後3時～午後4時30分

場 所：自然史博物館 講堂

講 師：三田村宗樹氏（大阪市立大学理学研究科准教授）

参加者：103名

「地震－3. 津波とはどういうものなのか？」

日 時：12月6日（土）午後3時～午後4時30分

場 所：自然史博物館 集会室

講 師：中条武司学芸員（第四紀研究室）

参加者：54名

地震体験や展示ツアー

「起震車で地震を体験してみよう！」

大阪市消防局の地震体験車（起震車）で、地震の揺れを体験します。

日 時：11月1日（土）、2日（日）、12月6日（土）、7日（日）

各日午前10時30分～午後3時30分まで

場 所：自然史博物館ポーチ（ナガスクジラの下）

参加者：1,559名（4日間の合計）

子どもワークショップ「なまちゃんハカセと展示ツアー」

会場の中の「なまちゃんキッズパネル」をキーワードに、なまちゃんハカセが展示を紹介した。

日 時：10月25日（土）、26日（日）、11月22日（土）、23日（日）

各日午前11:00～、午後1:00～、午後3:00～

場 所：自然史博物館ネイチャーホール

参加者：305名（4日間の合計）



図2. 「地震展2008」ワークショップ

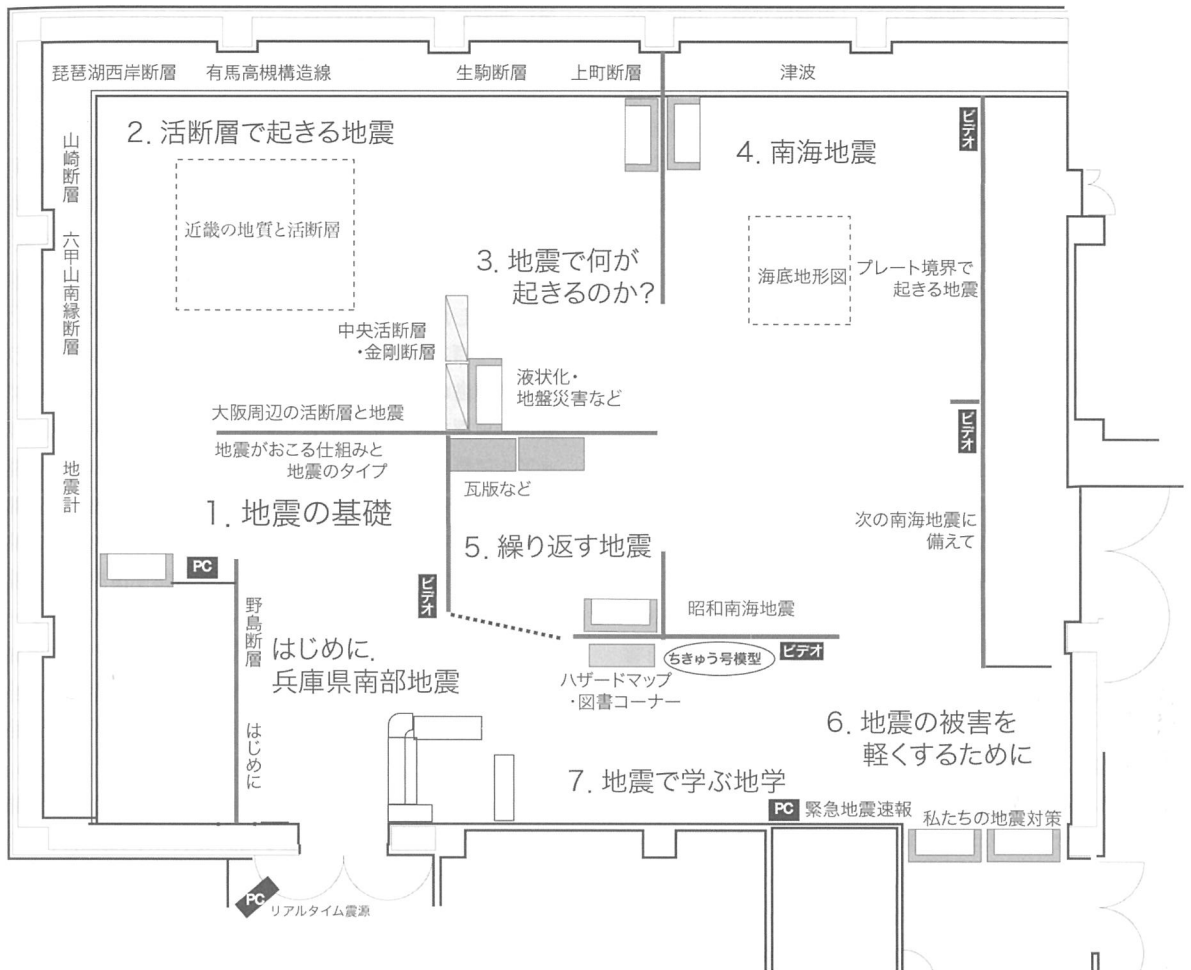


図3. 「地震展2008」配置図

地震の実験

ジオラボ「ペットボトルで液状化を実験！」

日 時：11月8日（土）午後2時30分～午後3時30分

場 所：自然史博物館ナウマンホール

講 師：中条武司学芸員（第四紀研究室）

参加者：38名

地震の野外観察

テーマ別自然観察会・活断層を歩くシリーズ7「上町断層」

活断層による変位地形や断層露頭を観察することを目的に、年度当初から7回のシリーズで企画した観察会で、7回目については特別展会期中に実施した。

日 時：11月30日（日）

場 所：大阪市

参加者：154名（午前・午後の2回実施）

展 覧 事 業

・「出張！自然史博物館 パネル展：地震—今わかっている事・知ってほしい事」

2008/10/25-12/7に開催された「地震展2008」の関連企画として、大阪市立図書館各所でパネル展示「出張！自然史博物館 パネル展：地震—今わかっている事・知ってほしい事」と関連講演会を開催しました。

【パネル展示】

- 6/1(日)－6/29(日)：住吉図書館
6/1(日)－7/29(火)：旭図書館
7/1(火)－8/30(土)：天王寺図書館、東淀川図書館
8/1(金)－8/30(土)：住之江図書館
8/1(金)－9/28(日)：生野図書館
9/1(月)－10/30(木)：中央図書館、此花図書館、東住吉図書館、阿倍野図書館
11/1(土)－11/29(土)：島之内図書館

【講演会】

- 8/2(土) 住吉図書館
8/15(金) 平野図書館
9/28(日) 中央図書館

(2) 当館が共催した特別展

本年度は上記の主催展のほか、下記のような当館共催の特別展をおこなった。

■「ようこそ恐竜ラボへ！」—化石の謎をときあかす—

本特別展は、モンゴル科学アカデミーと恐竜共同調査を行っている林原自然科学博物館の全面的な協力を得て、「化石を発掘・調査し、新しい事実を見つけ、復元する」恐竜研究のプロセスに焦点をあて、内容を構成し、またその成果として、日本初公開を含む化石標本—大型植物食恐竜のサウロロフスやコロトサウルス、エドモントニアや肉食恐竜のバリオニクス、アロサウルスの全身骨格化石、デイノニクスの復元模型などを展示し、あわせて、恐竜ラボトーク、好評な子どもワークショップ事業や恐竜パン作りなどの行事を展開した。

●会期：平成20年3月15日～6月29日

会場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

主催：大阪市立自然史博物館・読売新聞社・NHK大阪放送局・NHKきんきメディアプラン

●観覧料：大人1100円、高校・大学600円。

展示内容

- (1) 恐竜ファンの部屋

(2) さあ、恐竜をほりに行こう！

(3) さあ、恐竜をしらべよう！

(4) よみがえった恐竜たち

(5) 体験コーナー 恐竜と歩こう

■「ダーウィン展」

本展では2009年がダーウィンの生誕200年、「種の起源」発表150年になることを記念して、ダーウィンの生い立ちから、5年に及ぶビーグル号での世界航海、「種の起源」を発表するまでの苦悩と、進化論が当時の世界に与えた影響を紹介した。ビーグル号航海でダーウィン自身が実際に採集した標本や航海日誌等の実物資料を始めとして、ガラパゴス諸島の固有種など進化論の着想の基になった生物の標本や模型、映像を展示し、ダーウィンの思考過程をビジュアルに再現した。特に大阪展では進化論をわかりやすく理解してもらうコーナーや、木村資生の業績を紹介するコーナーを追加した。また、広瀬祐司教諭（大阪府立茨木高等学校）と松岡（中井）咲織教諭（立命館宇治中学校・高等学校）の協力を得て、高校生向けの展示見学ワークシートを作成し、府下および近県の高校に利用を呼びかけた（そのため、観覧料は高校生が低額となるよう設定した）。本展は2005年にアメリカ自然史博物館（ニューヨーク）が制作したもので、2009年まで世界巡回を行う展覧会である。日本では国立科学博物館（東京・3月18日～6月22日）と当館の2か所での開催であった。

●会 期：平成20年7月19日(土)～9月21日(日)

●会 場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

●主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞大阪本社、NHK大阪放送局

●企 画：アメリカ自然史博物館

●観覧料：大人1,200円、大学生1,000円、高校生600円

●展示内容

(1) ビーグル号での世界航海。「進化」を発見する旅に出よう！

ビーグル号の模型、ダーウィン自身が採集した標本、ダーウィン自筆の航海日誌を展示し、5年に及ぶ航海での出来事や、進化論の着想を得た場所—ガラパゴス諸島での体験を再現。

(2) ダーウィンの研究を知ろう

ダーウィンが「種の起源」を執筆した書斎を忠実に再現。書簡の展示を中心にダーウィンの研究活動を紹

介。

(3) ダーウィンが魅せられた生きものたちの驚きの映像
地球にいるさまざまな生き物の映像を多数のモニターやスクリーンで紹介。

(4) 進化を知ろう

ダーウィンが見いだした生物学の基本原則である「自然選択による進化」を、ゲームやハンズオン展示でわかりやすく紹介。

Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行なっているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

■「鳴く虫 巡回展」

会期：10月4日～11月3日

会場：自然史博物館本館2階イベントスペース

■「大台ヶ原の自然」展

会期：平成21年1月9日～3月1日

会場：自然史博物館本館2階イベントスペース

■「こんなにいる大阪湾の貝800種」展

会期：平成21年3月20日～4月5日

会場：自然史博物館ネイチャーホール

■アート・ミーツ・サイエンス 押し花で植物を「描く」展

会期：平成21年3月27日～4月2日

会場：自然史博物館ネイチャーホール

Ⅳ. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、小規模な移動展示を行なっている。

■「モンゴル発掘写真展」

「恐竜ラボ展」の広報を兼ねて、同展で展示されているモンゴルでの恐竜発掘の現場写真を中心に展示した。

会場：大阪市役所玄関ホール

会期：4月3日(木)～4月24日(木)

会場：天保山マーケットプレイス

会期：4月25日(金)～6月1日(日)

会場：NHK大阪放送局アトリウム

会期：6月3日(火)～6月9日(月)

V. 「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年(小学1～3年生)向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するようにしている。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためるとともに、土・日曜日に、裏面に書き込みスペースのあるカードを印刷し配布している。

Ⅵ. その他

(1) 開館時間延長

3月から10月までの8ヶ月間の開館時間を30分延長し、午後5時閉館とした(入館は4時30分まで)。11月から2月までは、従来通り午後4時4時30分閉館(入館は4時まで)。

(2) 「関西文化の日」の11月15日(土)ならびに16日(日)を無料開放とした。

普及教育事業

I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている(**印)。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめの細かい普及教育活動を行うために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事に導入している(*印)。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事は、こうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

2007度から、野外観察会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体勢の拡充、より充実した教材の提供を行うことが可能になり、行事の質の向上につながっている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか、省略した。行事の詳細は展覧事業23ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

定員を超過している行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員したことにより、抽選率を緩和した行事もある。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」*、** 高槻市

4月27日 申込250名(当選250名) 参加者185名

「海べのしぜん」*、** 岬町長崎海岸

5月18日 参加者242名

「ツバメのねぐら」* 奈良市

8月2日 申込173名(当選173名) 参加者99名
「バッタのオリンピック」** 藤井寺市石川～大和川

10月13日 申込188名(当選188名) 参加者135名
「野草と木の実であそぼう」*、** 大阪府貝塚市

10月26日 申込82名(当選82名) 雨天中止
「化石さがし」 泉佐野市

12月14日 申込371名(当選151名) 参加者110名

2月15日 申込130名(当選130名) 参加者106名
6テーマ 6回実施 延べ参加者877名

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。2007年度から淀川水系調査を開始したことから、淀川流域から行事実施場所を選定した。

「大和川下流域の春の花」 大阪市平野区

4月6日 申込66名(当選66名) 参加者47名

「淀川を歩こう1：三川合流～枚方大橋左岸」
京都府八幡市、大阪府枚方市

5月25日 申込76名(当選76名) 参加者36名

「長居」 大阪市東住吉区

6月21日 参加者25名

「淀川を歩こう2：枚方大橋～豊里大橋左岸」
枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区

6月22日 申込55名(当選55名) 雨天中止

「淀川を歩こう3：菅原城北大橋～河口左岸」
大阪市旭区～此花区

7月6日 申込48名(当選48名) 参加者35名

「淀川を歩こう4：三川合流～枚方大橋右岸」
、京都府大山崎町、大阪府島本町、高槻市

9月28日 参加者26名

「淀川を歩こう5：枚方大橋～豊里大橋右岸」
高槻市、摂津市、大阪市東淀川区

10月12日 申込38名(当選38名) 参加者31名

「淀川を歩こう6：豊里大橋～河口右岸」
大阪市東淀川区～西淀川区

11月24日 申込43名(当選43名) 雨天中止

8テーマ6回実施 のべ参加者数200名

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象を絞って観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。テーマ選定にあたっては淀川水系および特別展「地震展2008」を意識した。

「活断層シリーズ2：金剛断層」 奈良県御所市		
4月13日	申込 73名 (当選 73名)	参加者 52名
「活断層シリーズ3：生駒断層」 東大阪市		
5月11日	申込 54名 (当選 54名)	雨天中止
「ソウシチョウがいる山の鳥」 兵庫県芦屋市～神戸市		
6月1日	申込 26名 (当選 26名)	参加者 21名
「活断層を歩くシリーズ4：中央構造線」		
6月8日	申込 39名 (当選 39名)	参加者 27名
「京都の植生かんさつ4－八丁平」 京都府京都市、滋賀県大津市		
6月8日		雨天中止
「初夏のキノコ」 島本町		
7月27日	申込 49名 (当選 49名)	参加者 30名
「ハチのくらし」 奈良県生駒市		
8月31日	申込 44名 (当選 25名)	参加者 11名
「活断層を歩くシリーズ5：山崎断層」 兵庫県宍粟市		
9月7日	申込 21名 (当選 21名)	参加者 16名
「雑木林のキノコ」 堺市		
9月28日	申込 38名 (当選 38名)	参加者 30名
「活断層を歩くシリーズ6：有馬－高槻構造線」 茨木市		
10月5日	申込 17名 (当選 17名)	雨天中止
「アカトンボ調べ」 能勢町		
11月2日	申込 64名 (当選 64名)	参加者 36名
「交野の湧水と淀川支流－水の流れを探る－」(日本生命財団の学際的総合研究助成を受けて実施) 交野市		
11月23日	申込 35名 (当選 35名)	参加者 31名
「活断層を歩くシリーズ7：上町断層」 大阪市		
11月30日	申込 145名 (当選 145名)	参加者 154名
「光明池の大阪層群」 和泉市、堺市		
2月22日	申込 49名 (当選 38名)	参加者 27名
「活断層を歩くシリーズ6：有馬－高槻構造線」 茨木市		
3月1日	申込 50名 (当選 50名)	参加者 38名
	15テーマ12回実施	のべ参加者数473名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では実施できない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「キノコの顕微鏡観察」*		
1月18日	申込 58名 (当選 58名)	参加者 31名
「イカ・タコの体のつくりを調べよう」*		
2月1日	申込 17名 (当選 17名)	参加者 15名
「マツボックリ」		
2月8日	申込 18名 (当選 18名)	参加者 17名
「魚のからだ」		
2月22日	申込 16名 (当選 16名)	参加者 16名
「ヒメドロムシの見分け方」		
3月8日	申込 27名 (当選 27名)	参加者 21名
	5回実施	のべ参加者数100名

■野外実習

野外における自然観察から得られたデータがどのような意味を持つのかなど、分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「哺乳類を探そう：春編」 茨木市		
4月13日	申込 35名 (当選 35名)	参加者 20名
「哺乳類を探そう：秋編」 高槻市		
9月23日	申込 63名 (当選 63名)	参加者 51名
	2回実施	のべ参加者数71名

■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができている。

4月26日*	参加者74名
5月24日*	参加者31名
7月26日*	参加者36名
8月23日*	参加者27名
9月27日*	参加者48名
11月22日*	参加者51名
12月27日*	参加者61名

普及教育事業

1月24日* 参加者52名

2月28日* 参加者81名

3月28日* 参加者69名

10回実施 のべ参加者数530名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

花と緑と自然の情報センターのオープンを機に、長居植物園の自然により親んでもらおうとする行事。季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。原則として毎月第3土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」*	4月26日	参加者 48名
「晩春の虫たち」	5月17日	参加者 45名
「セミの羽化のかんさつ」*	7月19日	参加者126名
「大池の生き物」	8月16日	参加者 21名
「初秋の虫たち」	9月20日	参加者 39名
「ダンゴムシワラジムシ」	11月22日	参加者 38名
「冬越しの昆虫」	12月20日	参加者 55名
「公園の冬鳥」	1月17日	参加者 54名
「鳥たちの冬の食事の様子」*	2月21日	参加者 60名
「花に来る鳥」*	3月21日	参加者 66名

10回実施 のべ参加者数552名

■植物園案内スペシャル編

2008年度は6月と10月に、1日で複数のテーマを短時間・複数回解説する植物園案内のスペシャル編を開催した。

6月28日* 参加者 66名

10月18日* 参加者110名

2回実施 のべ参加者数176名

■自然史オープンセミナー

当館学芸員が自らの調査・研究の成果をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。昨年度から、特定のテーマを体系的に学習してもらうことを主眼として、3～4回のシリーズ企画としている。当館集会所で原則として毎月第1土曜日の午後3時～4時30分に開催。

1月と2月のオープンセミナーは文部科学省（独立行政法人科学技術振興機構）のSPP「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト 理数系教員指導力向上研修事業」の支援を受けて実施した。

「ロンドンで日本のハチを調べる話」

4月5日 参加者 28名

「展示室で学ぶ生き物のくらしシリーズ1：生き物の関わりあいとすみ場所の結びつき」 5月3日 参加者 30名

「展示室で学ぶ生き物のくらしシリーズ2：生きもの同士の様々な関係」 6月7日 参加者 28名

「ダーウィンシリーズ1：自然淘汰と性淘汰」

7月5日 参加者 47名

「ダーウィンシリーズ2：植物の受精と繁殖様式」

8月2日 参加者 48名

「ダーウィンシリーズ3：ビーグル号の航海と魚類」

9月6日 参加者 41名

「地震-1：日本列島のおいたちと地震」

10月4日 参加者 46名

「地震-2：大阪の地盤と地震」 11月1日 参加者103名

「地震-3：津波とはどういうものなのか？」

12月6日 参加者 54名

「展示室で学ぶ生き物のくらしシリーズ3：動物のさまざまな移動」 1月10日 参加者 27名

「展示室で学ぶ生き物のくらしシリーズ4：つながって成り立つ自然」 2月21日 参加者 39名

「アサリのナチュラルヒストリー」

3月7日 参加者 40名

12回実施 のべ参加者数531名

■ジオラボ

普段は詳しく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえるよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事の中では初・中級向け。2008年度は「子ども夢基金」の支援を受けて実施した。

「ミクロの化石」* 4月12日 参加者 15名

「鹿沼土のひみつ」* 5月31日 参加者 45名

「水槽の中に地層を作る」* 6月14日 参加者 40名

「米つぶサイズの貝化石さがし」*

7月12日 参加者 16名

「メタセコイア」* 8月9日 参加者 39名

「石ころ調べ」* 9月13日 参加者 35名

「大阪の地質模型づくり」* 10月11日 参加者 26名

「ペットボトルで液状化を実験！」*

11月8日 参加者 38名

「偏光でみた鉱物の世界」*,**	12月13日	参加者 42名
「おいしい水 —ミネラルウォーターの水質」*,**		
	1月10日	参加者 41名
「メタセコイア」*	2月14日	参加者 36名
「土に含まれる炭をみよう」*,**		
	3月14日	参加者 35名
	12回実施	のべ参加者数408名

2回実施 のべ参加者数100名

■夏休み自由研究相談会*

夏休みに自然をテーマとした自由研究に取り組みたいが、方法がわからない、対象を決めかねている、といった悩みをもつ小・中・高校生に、学芸員がアドバイスを行う行事。できるだけ事前申込を呼びかけたが、当日参加も受付けた。2005年度より実施している。

日 時：7月20日（日）

場 所：自然史博物館 ミュージアムサービスセンター
相談件数：29件（事前申込17件、当日受付12件）

■標本の名前をしらべよう—標本同定会—**

児童生徒が夏休みに採集して作成した標本の名前を教える行事。自然物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。ただし、子供だけでなく、大人の参加者も多い。館外から多数の専門家の参加を得て、毎年8月下旬に実施している。昨年までは「標本同定会」というタイトルであったが、今年度から現タイトルに変更した。

日 時：8月24日（日）

同定件数：74件、参加者数：110名。

なお本事業の効果を高めるため、夏休みの始めに「夏休み自由研究相談会」（7月20日）も開催している。

■学芸員ミニトーク

博物館の研究員である学芸員が、各自の行っている研究や自然関係のトピックに関して、展示室で短時間の話をする。2006年度から実施し、2007年度途中で行事の定期的な実施を打ち切ったが、2008年度は必要に応じて実施した。なお、特別展期間中に会場内でギャラリートーク（恐竜ラポ展4回、ダーウィン展6回）を実施したが、ここでは列記しない。これらの詳細については展覧事業の各特別展関連行事の項を参照のこと。

「ナガスクジラ」	9月20日	参加者 60名
「大台ヶ原の自然」	2月7日	参加者 40名

■音楽と自然のタベ

ファミリー層を主体とした市民に、自然に触れ、親しんでもらう機会を作ることを目的として、大阪市音楽団による演奏と自然史博物館学芸員のミニトークの実施を企画した。大阪市における文化施策と教育の連携事業として2007年度にも実施しており、大阪市の博物館・美術館など8施設（大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪市立美術館、天王寺動物園、大阪城天守閣、大阪歴史博物館、大阪市立近代美術館（仮称）心斎橋展示室、大阪市立自然史博物館）が共同で行うキャンペーンイベント、「ミュージアムウィークス大阪2008」の期間（平成20年9月13日（土）～10月13日（月・祝））に合わせて実施した。

日 時：10月4日

会 場：博物館本館 玄関ポーチ

内 容：「ナガスケの来た道」樽野博幸（地史研究室）

大阪市音楽団によるコンサート

参加者：700名

■講演会・シンポジウム

特別展普及講演会以外にも、学会などと共催した講演会やシンポジウムを開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。

1. 第25回地球科学講演会「石油天然ガス資源をめぐる私たちの将来」（地学団体研究会大阪支部、日本地質学会近畿支部、日本堆積学会との共催）

日 時：5月10日（土）

会 場：自然史博物館 講堂

講 師：荒戸裕之（帝国石油（株）国内本部開発部長）

参加者：140名

2. LSJアサギマダラプロジェクト公開シンポジウム（日本鱗翅学会近畿支部・日本昆虫学会近畿支部との共催）

日 時：5月11日（日）

会 場：自然史博物館 集会室

プログラム：

1. 「イチモンジセセリの生活史と移動」 石井 実（大阪府立大学）
2. 「2007年のアサギマダラの調査成果報告」 金沢 至（昆虫研究室）
3. 総合討論

参加者：54名

3. 国際博物館の日記念シンポジウム「都市の魅力発信と博物館連携—大阪市の博物館を語る—」（大阪市、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪市立美術館、大阪城天守閣、大阪歴史博物館、大阪市立近代美術館建設準備室、大阪市博物館施設研究会との共催。日本博物館協会の後援により実施）

日時：5月18日（日） 10：30～16：00

会場：大阪市立歴史博物館4階 講堂

プログラム：

【第1部 大阪市の博物館群を語る】

「大阪市の博物館の系譜」 山西 良平（大阪市立自然史博物館館長）

「大阪市における博物館群としての取り組み」

高井 健司（大阪市ゆとりとみどり振興局博物館群運営企画担当課長代理）

パネルディスカッション「学芸員が語る我が館」（大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪市立美術館、大阪城天守閣、大阪歴史博物館、大阪市立近代美術館建設準備室、大阪市立自然史博物館（計7施設の各館学芸員））

【第2部 シンポジウム「大都市における博物館群とその連携」】

「文化政策的観点からみる博物館・美術館の可能性」

小林 真理（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

「地域の博物館に求められている課題」 栗原 祐司（文部科学省生涯学習政策局社会教育課企画官）

「多様な博物館・美術館を包含する大都市の魅力」

小川 明（共同通信社編集委員・論説委員）

「大阪市の博物館施策への期待」 山口 洋典（應徳院寺町倶楽部事務局長）

「博物館連携のあり方について」 中瀬 勲（兵庫県立人と自然の博物館副館長）

総合討論（座長：山西良平 大阪市立自然史博物館館長）

参加者：133名

4. 特別行事「第5回里山保全特別講演会」（日本鱗翅学会近畿支部との共催）

日時：10月5日（日）

会場：自然史博物館 講堂

プログラム：

1. 「京阪神地区におけるガの現状」 木下總一郎

2. 「紀伊半島のチョウの生息状況」 伊藤ふくお（奈良県）、諏訪隆司（和歌山県）、中西元男（三重県）

3. 「近畿地方のチョウの生息状況と保全が必要な種や地域」 各府県の自然保護委員

4. 総合討論

参加者：47名

5. 大阪市立自然史博物館友の会・公開講演会「となりの変虫記—虫屋ではない虫好きによる虫入門—」（非会員枠）

今年度から、毎年友の会で総会時に開催している特別講演会に非会員枠を設定し、公開講演会とした。

日時：1月25日（日）

会場：自然史博物館 講堂

講師：安田 守（フリーランスナチュラリスト・生き物写真家）

「となりの変虫記—虫屋ではない虫好きによる虫入門—」

参加者：8名（非会員枠）

6. カメラで獲る自然 アート・サイエンス・ハンティング

日時：2月22日（日）

会場：自然史博物館 講堂

講師：伊藤ふくお（昆虫写真家）

参加者：32名

7. 押し花講演会

日時：3月29日（日）

会場：花と緑と自然の情報センター2階 ネイチャーホール

参加者：50名

以下、特別展に関連する講演会はここではタイトル、日時、参加者数だけを記す。詳しくは展覧事業23ページからの各特別展の関連行事の項を参照のこと。

8. 恐竜ラボトーク「恐竜研究ってこんなに面白い！」

2：発見が続くアジアの竜脚類

4月12日（土） 参加者：150名（申込72名）

9. 恐竜ラボトーク「恐竜研究ってこんなに面白い！」

3：丹波の恐竜化石発掘最新報告

5月18日（日） 参加者：80名（申込81名）

10. 恐竜ラボトーク「恐竜研究ってこんなに面白い！」

4：恐竜の生きた姿を復元する

5月31日（土） 参加者：170名（申込119名）

(参考) 恐竜ラボトーク「恐竜研究ってこんなに面白い!」1

日 時: 2008年3月23日(日)

参加者: 101名(申込51名)

11. 特別展「ダーウィン展」特別講演会(第1回)

日 時: 7月26日(土) 参加者: 216名

12. 特別展「ダーウィン展」特別講演会(第2回)

日 時: 8月23日(土) 参加者: 200名

13. 特別展「ダーウィン展」特別講演会(第3回)

日 時: 8月30日(土) 参加者: 167名

14. 特別展記念講演会「スロー地震とは何か 巨大地震予知の可能性をさぐる」

日 時: 11月2日(日) 参加者: 90名

15. 特別展記念講演会「地震考古学から21世紀の巨大地震を考える」

日 時: 11月29日(土) 参加者: 122名

■ジュニア学芸員になろう!*

3日間連続の実習。2007年度までは「ドキドキ子ども自然史ウォッチング:博物館たんけんコース」のタイトルで実施していたが、今年度からタイトルを変更した。学芸員があらかじめ用意した課題に基づき、学芸員と補助スタッフの指導のもと野外調査を行い、この結果をまとめ、展示として作成した。208年度は長居公園・植物園を調査場所とし、「昆虫(アリ)」、「植物(サルスベリ)」の2テーマのうち、どちらか好きな方に取り組んでもらった。タイトルの変更に伴い、対象もこれまでの中学生から小学5年生~中学生に広げて実施した。

自分の目と手で調べた調査を展示として作成、発表することで、自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている。また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらうプログラムとしても位置付けている。1998年からこの形式で実施している。

8月14日(木)~16日(土)

申込49名(当選30名) 参加者25名

■はくぶつかん・たんけん隊*

裏方(実験室や収蔵庫など)を中心とする館内見学。普段は見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。2007年度までは「ドキドキ子ども自然史ウォッチング:博物館たんけんコース」のタイトルで実施

していたが、今年度からタイトルを変更し、対象もこれまでの小学生から小学生~中学生に広げた。2008年度は申込が多かったため、1月11日、12日の2日間に渡って午前・午後の部を設け、合計4回実施した。また、参加者の家族(保護者・未就学児)向けに、参加者とは別枠でバックヤードショートツアーを行った。

1月11日(日)~12日(月・祝)

申込228名(当選228名) 参加者176名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談(1999年2月20日)を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒に行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2009年3月31日現在の部員数は64名。

●2008年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。

「ミーティング、裏方見学と標本実習」*

4月1日 参加者 22名

「ミーティング」*

5月11日 参加者 10名

「磯観察」*

6月8日 参加者 8名

「池田の川で水遊び」

7月30日 参加者 4名

「博物館で標本実習」*

8月5日 参加者 14名

「廃線軌道探検」*

9月7日 参加者 8名

「干潟の生き物観察と海浜甲虫探し」*

9月27日 参加者 2名

普及教育事業

「ミーティング」	10月5日	参加者 2名
「鉱物採集」*	11月3日	参加者 12名
「植物化石」	12月21日	雨天中止
「鶺鴒」*	1月5日	参加者 5名
「犬鳴山のコケ探し」*	2月1日	参加者 3名
「高槻のアカガエルを探そう」*	3月26日	参加者 4名
	13回実施	のべ参加者 94名

■裏庭ピオトープの日

バックヤードを利用して、ピオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか、継続的に調査している。ピオトープ作りに関心のある方、自然に興味がある方、体を動かすことが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則として毎月第一土曜日に実施している。本行事は友の会行事であるが、非会員にも広く開かれた行事となっており、参加者の非会員率が非常に高い。そのため、この項でも詳しくとりあげた。

2008年度は独立行政法人科学技術振興機構の地域科学技術理解増進活動推進事業の支援により実施した。

4月5日	参加者56名
5月3日	参加者41名
6月7日	参加者57名
7月5日	参加者39名
8月2日	参加者35名
9月6日	参加者45名
10月4日	参加者54名
11月1日	参加者36名
12月6日	参加者42名
1月10日	参加者29名
2月7日	参加者30名
3月7日	参加者40名
	12回実施 のべ参加者504名

■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年度から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展開連のものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。原則的に毎月1度の土日に実施している。普及行事の中では、初級向け。

2007年度より、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名募集し、研修を実施したうえで、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと共にオリジナルプログラムを製作、3月の「ボランティア祭り」において実施してもらった。

特別展開連行事として実施したワークショップについての詳細は展覧事業23ページからの各特別展の関連行事の項を参照のこと。

「ながめて作ってレプリカ体験」*	4月12日・13日・26日・27日、6月7日・8日・21日・22日	参加者 581名
「クジラスタンプラリー」*	4月29日	参加者 450名
「きょうりゅうはりえ デイノニクス編」*	5月17日・18日・24日・25日	参加者 411名
「ダーウィン展たんけんブック」*	7月26日・27日、8月16日・17日・9月6日・7日	参加者1118名
「ビーグル号・びっくりレター」*	8月3日・9日・10日・23日・24日・30日・31日	参加者 432名
「ガラパゴスぬりえ」*	8月2日	参加者 122名
「なまちゃんハカセと展示ツアー」*	10月25日・26日、11月22日・23日	参加者 305名
「リュウグウノツカイ」*	12月20日・21日、1月17日・18日	参加者 137名
「ゴキブリ」*	2月21日・22日	参加者 96名
、「ボランティア祭り」*	3月28日・29日	参加者 215名
	39回実施	のべ参加者3,745名

II. 教員・観察会指導者向け支援プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまったことから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まってきている。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員

対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。また、対象は学校教員に限らず、教員を目指す大学生、自然観察指導員などに門戸を広げて実施している。

2008年度8月以降の行事は文部科学省（独立行政法人科学技術振興機構）のSPP「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト 理数系教員指導力向上研修事業」の支援を受けて実施した。

「長居植物園案内・春の遠足下見編」		
4月8日		参加者33名
「長居植物園案内・春の遠足下見編」		
4月9日		参加者27名
「長居植物園案内・春の遠足下見編」		
4月10・11日		中止
「火山灰野外編1」		
5月24日	申込10名（当選10名）	雨天中止
「街で繁殖する鳥」		
5月28日	申込5名（当選5名）	参加者3名
「蝶・蛾の幼虫の見分け方」		
7月5日	申込12名（当選12名）	参加者5名
「火山灰室内編1」		
7月6日	申込14名（当選14名）	参加者11名
「火山灰室内編2」*		
8月3日	申込10名（当選10名）	参加者7名
「セミのぬけがらで環境学習」		
8月13日		参加者13名
「都市のコケ」**		
8月6日		参加者25名
「ボーリングコア」*		
8月7日－8日（金）	申込3名（当選3名）	参加者3名
「電子顕微鏡を使った観察・教材作成」		
8月27日		参加者7名
「都市公園での自然観察」		
8月29日		参加者4名
「都市公園での自然観察」		
9月2日		参加者7名
「都市公園での自然観察」		
9月3日		参加者5名
「淡水プランクトンの採集と同定」*、**		
10月11日	申込32名（当選32名）	参加者27名
「ひつつき虫の教材化」**		
11月1日		参加者12名
「樹脂包埋標本の作製」		

11月30日 申込21名（当選21名） 参加者13名
「スルメイカの解剖実習」

1月31日 申込19名（当選19名） 参加者19名
20回計画 17回実施 のべ参加者194名

Ⅲ. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下ののべ42名の学生を受け入れた。

一般実習コース

夏期：8月29日～9月2日 19名

上田哲士・最上巴恵（神戸大学）、古田裕子（帝京科学大学）、瀬川明宏（琉球大学）、堀口 亮・土居真純（大阪府立大学）、川内華弥菜・松井瑤子（追手門学院大学）、米原さとみ・佐野龍太（近畿大学）、浜岡利一・橋本貴之（滋賀県立大学）、渡邊正和（静岡大学）、谷口佳美（九州東海大学）、橋本圭一郎・佐野みゆき（京都精華大学）、宮脇千明・柴田多恵子（奈良女子大学）、山本佳奈（北海道大学、但し、8月27～31日）

秋期：11月5日～9日 17名

橘 富大（神戸芸術工科大学）、小野綾子・須賀友也・林実幸（神戸大学）、桑田和宏・東田真依（大阪府立大学）、平田和彦（八洲学園大学）、中邑昂史・山崎政一（近畿大学）、_田和行（近畿大学）、丸山麻美（滋賀県立大学）、藤本麻希子（大阪芸術大学）、岸本光樹（愛媛大学）、中谷祐也（九州大学）、寒川万里菜・山下愛子（奈良女子大学）、降矢真由子（大阪教育大学）

普及教育専攻コース

夏期：8月3日、14日～16日、24日 3名

澤田宗一郎（名城大学）・茶木 学（南九州大学）・笠谷麻美（奈良女子大学）

冬期：1月10～12日、24～25日 3名

桂 武邦（神戸大学）、西田章恵（大阪府立大学）、岸本光樹（愛媛大学）

Ⅳ. 各種研修

■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行な

っている。行実施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範囲になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっており、当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

V. 学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問に関係なく、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行える素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM (Teachers-Museum) 委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

<児童・生徒向け事業>

- ・博物館マップ・ワークシートの配布：見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参

できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の3種類がある。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。学芸員が館外に出向くことは、特別の場合を除いて行っていない（長居植物園は除く）。

2008年度は小学校 3件、中学校 4件、高校 5件、専門学校・大学 4件、特別支援学校 1件、合計17件の授業を行った。

2008年度の授業例：「植物のつくり」、「骨」、「虫の体」、「大阪の哺乳類」、「生き物と環境の関わり」など。

・学校からの自然に関する質問への対応

自然に関する質問に関しては常時対応しているが、学校のグループやクラスでの質問の場合には、事前に連絡してもらい、専門分野の学芸員が対応する体制を準備している。

・就業体験（インターンシップ）学生への受入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2008年度は、大阪府内の中学校1件（1人）を受け入れた。この他に職業体験に関するインタビューが3件あった。

<先生向け事業>

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学や博物館の利用方法について提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子

ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載されている。

2008年度は、博物館の出版物23件、ビデオ・CD-ROM・DVD70件、標本キット13件の貸し出しを行った。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している大学生、総合学習に関わる活動をされている方、自然観察会の指導をされている方を対象に研修を行っている。2008年度は17回開催した（35ページ参照）。これら以外に、小中学校の教員を対象とした9件の教員研修を行った。

2008年度は、科学技術振興機構 理数系教員指導力向上研修事業（希望型）の助成を受け教員向けの研修を行った。35ページの教員・観察会指導者向け支援プログラムのうち8月以降のプログラムについて助成を受けた。助成金額758千円。実施報告書「博物館による野外観察研修を中心とした地域の自然学習プログラム・教材試作」を出版した。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers—Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers—Museum Network）をつくっている。97名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

<その他>

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物教育研究会および地学教育研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2008年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。ダーウィン展において高校生向けワークシートを大阪府高校生物教育研究会の協力を得て作成した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科、中学校の社会科（地理・歴史・公民）・理科（第2分野）の指導要領におけ

る単元と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

VI. 普及活動に対する支援

■博物館における野外観察研修を中心とした地域の自然学習プログラム・教材試作

助成金額：758千円。

独立行政法人科学技術振興機構（JST）より、理数系教員指導力向上研修事業（希望型）の助成を受け、35ページの教員・観察会指導者向け支援プログラムのうち8月以降のプログラムについて助成を受けて実施した。外部講師、ティーチングアシスタントに来ていただく事ができ、充実したわかりやすい研修とすることができた。消耗品、通信費の一部についても助成金を用いた。実施報告書「博物館による野外観察研修を中心とした地域の自然学習プログラム・教材試作」を出版した。

■地域科学技術理解増進活動推進事業 地域活動支援

「水と生きもの～都市の自然環境を知ろう～」(企画No. 20325)

助成金額：236,541円

期間：平成18年6月7日～平成18年2月7日

独立行政法人科学技術振興機構（JST）より19年度地域科学技術理解増進活動推進事業として助成を受け、ピオトープを利用した連続プログラムを実施した。特に水環境に重点を置いて、田んぼや池、そして周辺の草地や林を舞台に、水と生きものの結びきを実感できるような活動の実施をめざした。

VII. 大阪自然史センター連携事業

■かんさいしぜんフェスタ2008

2007年末、自然科学を基礎とした自然環境保全・保護に取り組むことを目的に、大阪自然史センターは関西自然保護機構をその活動の中に合流をさせている。関西自然保護機構は1978年の創立以来30周年を迎え、関西各地でさまざ

まな自然保護上の課題に取り組んできた。今回のイベントは、関西各地での自然保護上の課題に直面している市民とともに、これまでの事例・成果を共有し、科学的な評価をするとともに各地でのこれからの保全活動にフィードバックすることを狙ったものとして企画した。既存の学会や集会にはなかったこうした機会を関西自然保護機構が担うことで、博物館としても自然科学的な知識や成果の普及や地域還元につなげることが可能になることから、(社)日本望遠鏡工業会とともに共催した。

かんさい自然フェスタは、学会の大会と、いままで大阪市立自然史博物館で開催されてきたフェスティバルの両方の要素をそなえたものとなった。学会のようなポスターセッションやシンポジウムがあると同時に、ブース出展によるハンズオンセッション、ワークショップショーケースといった市民向け普及教育企画も開催した。大学などにおける研究成果を地域の自然保護活動にいかすきっかけ、地域の自然保護活動の横のつながりを作り、広く一般に知ってもらう機会として、ネットワーク化することも一つの狙いであり、シンポジウムなどへの参加者数から、それらはおおむね達成されたと考えている。

「かんさい自然フェスタ2008 楽しみ・伝え・まもる私たちの自然」

(主催) 関西自然保護機構、NPO大阪自然史センター、大阪市立自然史博物館、(社)日本望遠鏡工業会

2008年11月15～16日 大阪市立自然史博物館全館

総入場者数

11/15 (土) 5700名

11/16 (日) 4350名

ブース発表団体数 42団体

ポスター発表団体数 31件

11月15日 講演会プログラム

テーマ別シンポジウム① 大阪湾の自然再生をめざすネットワーク活動の方向性を考える 参加者 83名

テーマ別シンポジウム② シカが森を喰べ尽くすまえにー研究から保全への展開をさぐるー参加者 106名

招待公演 カエルのきもちを忘れない 長谷川正美氏 参加者 118名

11月16日 講演会プログラム

テーマ別シンポジウム③ 自然保護運動に役立つ自然保護教育とは 参加者 75名

テーマ別シンポジウム④ 近畿地方における外来生物問題への取り組み 参加者84名

四手井賞受賞講演 近畿における在来・外来・雑種タンポポの分布状況 参加者 77名

自然保護レクチャー 開発から自然を守るにはー開発計画への予防と対策ー 参加者 80名

VIII. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に、42回の行事を企画し、41回(1回は雨天中止)実施した。延べ1894名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

1. 2008年度の友の会会員数は、1809名(1年会員1517名、4月会員81名、半年会員119名、10月会員52名、賛助会員40名)であった。2007年度は1772名。

※2008年度賛助会員(敬称略) 浅井 彪、麻野 浩、浅葉 清、天野遼平、石田 律、浦野動物病院、永徳 定、大岩 誠、大内和太郎、大宮文彦、加藤江理子、川崎 紗織、川端優太、岸 幹男、小郷一三、小林ふさ子、下原ミサヲ、初宿成彦、白川勝正、杉本周作、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、田辺一三、田村芙美子、寺田雅章、永井敦子、西尾秀雄、西川喜朗、西田良司、西村静代、野村典子、蛭間久子、樋渡諦児、福西勝之、宮武頼夫、山下良寛、山本 章、和田 岳、匿名1名

2. 5回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。

3. 事業ワーキンググループで事業に関する内容について、9回の議論を行い、評議員会に諮った。

4. 評議員として、弘岡拓人さんが新たに加わった。

■事業報告

1. 刊行・製作

(1) Nature Study誌54巻1号(通巻644号)～12号(通

- 巻655号)を発行した。なお、Nature Study 5月号を20ページのアサギマダラ特集号とした。また、2月号の付録として「友の会のおしり(年間スケジュール)」を発行した。
2. すまボランティアフェスティバル2008(3月2日)に出展し、マスターバッジとシュロバッタ製作コーナーの開催、友の会の紹介、入会の案内を行った。
3. かんさい自然フェスタ(11月15日～16日)に出展し、ビオトープ案内とシュロバッタ製作コーナーの開催、友の会の紹介、入会の案内を行った。
4. きしわだ自然資料館友の会との共催で「岸和田沖の魚をみよう」(10月19日)を開催した。
5. 行事を42回企画し、41回実施した(1回は雨天中止)。延べ1894名の参加があった。以下に行事名と参加者数を記す。
- (1) 友の会総会2008 1月27日(日) 204名
- (2) 月例ハイキング (11回503名)
- | | | |
|-----------|------------|-----|
| 1月20日(日) | 妙見口～黒川 | 22名 |
| 2月17日(日) | 二料～中畑 | 36名 |
| 3月23日(日) | 加太城ヶ崎の海藻 | 78名 |
| 4月20日(日) | 豊国崎で磯遊び | 22名 |
| 5月18日(日) | 矢田丘陵で春の虫 | 40名 |
| 6月15日(日) | 高槻のカエル探し | 81名 |
| 7月12日(土) | ヒメハルゼミ奈良公園 | 81名 |
| 8月16日(土) | ウミホタルを見よう | 80名 |
| 9月21日(日) | 尺治川からくろんど池 | 10名 |
| 10月19日(日) | コオロギ相撲 | 20名 |
| 12月21日(日) | 歌姫街道の自然 | 33名 |
- (3) 友の会秋まつり「五感で学ぼう淀川の自然！」
 プレイメントその1「アメリカザリガニ釣り」
 10月26日(日) 雨天中止
 プレイメントその2「城北ワンドで食材集め」
 11月1日(土) 23名
 秋祭り本番 11月9日(日) 90名(+世話役・スタッフ39名)
- (4) 友の会合宿
 九州周防灘の干潟めぐり 5月3日(土祝)～5日(月祝) 57名(+世話役8名)
 石鎚山 8月8日(金)～10日(日) 41名(+世話役7名)
- (5) 昆虫採集入門講座合宿「奈良・曾爾 part 2」
 6月21日(土)～22日(日) 28名(+世話役7名)
- (6) 博物館に泊まろう！自然史ナイトミュージアム
 7月20日(日)～21日(月祝) 82名(+世話役8名)
- (7) 鞆公園のセミのぬけがら調査
 9月7日(日) 71名
- (8) 岸和田沖の魚をみよう(きしわだ自然資料館友の会共催) 10月19日(日) 53名
- (9) 友の会のタベ 10月25日(土) 30名
- (10) 海の向こうの見聞録発表会
 12月27日(土) 82名
- (11) 鳥類フィールドセミナー
 4月19日(土)、4月27日(日)、5月25日(日)、
 6月21日(土)、7月27日(日)、10月11日(土)、
 11月22日(土) 7回実施、のべ136名
- (12) 裏庭ビオトープの日
 2月23日(土)、3月8日(土)、4月5日(土)、
 5月3日(土祝)、6月7日(土)、7月5日(土)、
 8月2日(土)、9月6日(土)、10月4日(土)、
 11月1日(土)、12月6日(土)、1月10日(土)
 12回実施、のべ504名

■役員

- 会 長 西川喜朗
 副 会 長 谷田一三、山西良平
 評 議 員 板本瑤子、梅原 徹、浦野信孝、河合正人、
 高田みちよ、田代 貢、永井敦子、鍋島靖信、
 西澤真樹子、花岡皆子、春沢圭太郎、弘岡拓人、
 堀田 満、道盛正樹、三宅規子、村井貴史、
 山下裕子、米澤里美
 会計監査 加納康嗣、左木山祝一

広 報 事 業

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。

<体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（5名）と管理課（4名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの1名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

<広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館 行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの 情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、特別展の開催、自然に関する発見情報などを発表している。
写真・テレビ	様々なメディアの取材対応をしている。
大阪市内広報掲 示板へのポスタ ー掲示	特別展の際には応募し、当選すれば掲示している。B2縦またはB3横のポスターが750部掲示できる。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本

	館への誘導を行っている。 公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを60本製作し、長居公園に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。
	情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくい。長居公園の来園者に博物館の通常のイベントの広報が不十分であった。そのため、12月より特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。
	最寄り駅：最寄り駅である地下鉄長居駅改札口付近に、毎月のイベントを掲出している。特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、B1ポスターを掲出している。
他施設の情報 の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している。
ゆとりとみどり 振興局文化部で の広報	文化部で作成された、8館・園のパンフレット（日・英・韓・中の4カ国語）を館内で配布している。また、文化部の広報担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。情報提供先：MBS

広 報 事 業

	ラジオ、FM COCORO、読売テレビ、J-COM、大阪市動画サイト、携帯サイト、いちよう並木、OSAKA再発見マガジン、ミュージアムウィークス8 onポスター
大阪市文化財協会内での共同広報	指定管理者である大阪市文化財協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館の3施設で共同広報を行っている。文化財協会の機関誌へのチラシの同封、大阪歴史博物館のロビーでの当館特別展の広報、大阪歴史博物館の特別展の館内掲示など。

<広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあったマスコミ各社担当者のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	作成したチラシ類や催し物案内を博物館施設、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市内の小中学校に対しては送便便を活用している。特別展に関しては、日帰り圏内の博物館施設、大阪府内・大阪市内の図書館・社会教育施設に送付している。
地元小学校への広報	イベントの種類によっては、小学生をもつ地元の家庭への広報として、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。全児童配布は、東住吉区・住吉区の2区の場合と東住吉区・住吉区・阿倍野区の3区の場合がある。
大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元町内会への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会（東住吉区、住吉区、阿倍野区）へ特別展のチラシの掲示依頼、町内会長、女性部長宛の内覧会招待状の

	配布依頼を行っている。
地元商店街への広報	地元の商店街や商店には、特別展ポスターの掲示依頼、割引券の配布依頼を行っている。

<2008年度の広報状況>

表

印刷物の発送先(学校以外)	件数：大阪市内197件、大阪府内203件、その他の府県248件。施設種類：博物館、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集学学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしい自然観察会春・秋(40,000枚)、ワークショップ4回(126,000枚)、地球科学講演会(15,000枚)、第5展示室オープン(35,000枚)、関西しぜんフェスタ(ポスターB2 900枚、チラシ52,000枚)、ジオラボ(13,000枚)、特別展「恐竜ラボ」(当館発送担当分ポスターB2 210枚、B3 8,800枚、チラシ 192,000枚)、特別展「ダーウィン展」(当館発送担当分ポスターB2 220枚、B3 6,300枚、チラシ 260,000枚)、特別展「地震展2008」(ポスターB2 1,500枚、B3 14,000枚、チラシ 55,000枚)、毎月の催し物案内(2,000枚)、特別陳列「鳴く虫展」(ポスターB2 300枚、チラシ<裏面：音楽と自然のひろば>25,000枚)、特別陳列「大阪湾の貝800種」(チラシ34,000枚)
情報提供しているメディア関係	約240社
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ22社、大阪科学・大学記者クラブ17社、大阪市内区役所広報24区
テレビ・ラジオの取材(特別展以外)	4/8 NHK東京 制作局「知るを楽しむ」木村兼葎堂の貝石標本 5/3 ケーブルウエスト「コネクタテレビ」花や樹木の映像作品をつくろう 7/4 テレビ朝日「芸能界かがく部」プレラノドン 恐竜と鳥の進化

<p>について</p> <p>7/26 NHKエンタープライズ「昭和天皇と緑の交流シリーズ 三木茂」 収蔵資料</p> <p>8/7 読売テレビ「ニューススクランブル」大阪と東京のセミの鳴き声の違い</p> <p>8/15 関西テレビ「FNNスーパーニュース」大阪城の堀に発生した水草について</p> <p>9/27 NHK大阪放送局「あしたをつかめ」恐竜博2005開催時～学芸員の仕事について</p> <p>9/28 CS放送「インフォメーション関西」鳴く虫巡回展の紹介</p> <p>10/1 CS放送G+「読売ザKANSAI」ミュージアムウィークス大阪2008ナガスクジラの紹介</p> <p>10/7 NHK大阪放送局「ニューステラス関西」鳴く虫巡回展の紹介</p> <p>10/30 山陽放送「RKSイブニングニュース」アサギマダラ標本・文献</p> <p>11/1 読売テレビ「ニューススクランブル」ピンク色のキリギリスについて</p> <p>11/11 NHK東京「BS熱中人」変形菌の研究について</p> <p>11/20 韓国KBS「報道特集」森に未来がある</p> <p>1/13 読売テレビ「ニューススクランブル」ビルの下に眠るクジラ</p> <p>1/24 CS放送「サイエンスチャンネル」科学グランプリ</p> <p>2/2 eo光テレビ「歴史ろまん紀行」木村兼葭堂 貝石標本</p>	<p>大阪日日新聞、神戸新聞、テレビ大阪、ベイ・コミュニケーションズ、現代ビジネスプランC-Work、E&E、うえまち新聞 TOWN新聞、JOMすみよし)</p> <p>一般内覧会：198名（地元町内会関係者、友の会会員）</p> <p>広 報 媒 体：151の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ11、ラジオ5。</p> <p>■特別展「ダーウィン展」会期 7月19日～9月21日</p> <p>プレス発表：2008年3月18日、5月27日</p> <p>内覧会：2008年7月18日</p> <p>プレス内覧会：16社（神戸新聞社、現代ビジネスプランC-Work、大塚印刷、芦屋倶楽部、リラックス・コミュニケーションズ、赤旗関西総局、長谷工アーベスト、ベイ・コミュニケーションズ、日本経済新聞社、サンケイリビング新聞社、読売新聞大阪本社CS放送、産経新聞、サンテレビジョン、大阪日日新聞、兵庫県学校厚生会)</p> <p>開会式・一般内覧会：500名（一般招待者：243名、友の会会員：257名）</p> <p>広 報 媒 体：147の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ13、ラジオ5。</p> <p>■特別展「地震展2008」 会期10月25日～12月7日</p> <p>プレス発表：2008年8月26日</p> <p>内覧会：2008年10月24日</p> <p>プレス内覧会：11社（朝日新聞、読売新聞、読売CS放送、大阪日日新聞、神戸新聞、京都新聞、サンケイリビング、うえまち新聞、JOMすみよし、JOBBSラジオ、現代ビジネスプランC-work)</p> <p>一般内覧会：74名（町内会：54名、友の会会員：20名）</p> <p>広 報 媒 体：76の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ3、ラジオ2。</p>
---	--

<特別展の広報>

■特別展「ようこそ恐竜ラボへ」

会期 3月15日～6月29日

プレス発表：2007年12月20日、2008年8月7日

内覧会：2008年3月14日

プレス内覧会：12社（読売新聞社、産経新聞社、夕刊フジ、

*は館外研究者。[No.]は当館業績番号

■大阪市立自然史博物館研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第63号、2009年3月31日発行、34ページ。

鈴木寿之*・瀬能宏*・矢野維幾*・米沢俊彦*・大迫尚晴*：
琉球列島で採集された日本初記録のハゼ科魚類4種。1-10. [No. 413]

藤井伸二*・森小夜子*：琵琶湖岸におけるナミキノウ（シソ科）の逸出記録。11-14. [No. 414]

Yoshinari KAWAMURA*, Yoshitaka MATSUHASHI*, Ryohei NAKAGAWA* and Hiroyuki TARUNO: Occurrence of a suid mandible from the Pliocene Ueno Formation, Mie Prefecture, central Japan. 15-23. [No. 415]

Yoshinari KAWAMURA* and Hiroyuki TARUNO: An Early Pleistocene deer antler from the Akashi Formation in Hyogo Prefecture, central Japan. 25-34. [No. 416]

■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第3巻第8号、2008年6月30日発行、10ページ。

笹川満廣*：大阪市立自然史博物館へ移管した双翅目昆虫標本目録(追記)。127-136. [No. 411]

第3巻第9号、2008年7月31日発行、6ページ。

藤井俊夫*：大和川下流部の植物相。137-142. [No. 412]

■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録

第41集 志賀隆・藤井伸二*・瀬戸剛著「三木茂博士寄贈水草 腊葉標本目録」(附三木茂水草コレクション目録・タイプ標本画像CD) B5版。全42ページ。CD付。2009年3月31日発行。販売1,000円。

■特別展解説書

第37回特別展「地震展2008—今わかっていること知ってほしいこと—」解説書

一般市民向け、B5縦版、本文64ページ(カラー図版4ページ)。平成20年10月25日発行。700円。

■大阪市立自然史博物館叢書シリーズの出版

自然史博物館と大阪自然史センターによる編著で、東海大学出版会から「大阪市立自然史博物館叢書シリーズ」の刊行を行った。これまで、展示解説書などの形で博物館

から出版していた自然史に関する出版物をより広く市民に届けようとした、一般出版社からの書籍の刊行という試みである。

2008年度は本シリーズの第3弾として、「干潟を考える 干潟を遊ぶ」を2008年5月に、第4弾として「鳴く虫セレクション 音に聴く虫の世界」を2008年10月に出版した。今後の続刊についても、編集作業や計画が進行中である。

連携(ネットワーク)

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

〔ミッション3〕

地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。

博物館活動のパートナーとなるNPOやアマチュアを大切にし、自然愛好家の層を厚くしていきます。

(中期的目標)

- ・学校・地域との連携事業など市民との交流をNPOと協働して進めます。
- ・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
- ・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。

〔ミッション4〕

他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。

(中期的目標)

- ・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
- ・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
- ・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、活連携によって多様な相乗効果を生んでいることを挙げる事ができる。

ミッション3に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。自然史センターは昨年末に関西自然保護機構と合流を果たし、自然科学的な面からの自然環境保全への取り組みを強めている。このため、今年は関西自然フェスタ2008を開催し、関西各地で自然環境の保全や保護に取り組む団体などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を強化してきたところである。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展開を見せている。

研究・教育においての大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開

を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

高校生物研究会など

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物教育研究会および地学教育研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2008年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

西日本自然史系博物館ネットワーク

学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。設立5年目になり西日本の自然史系博物館のネットワークとして基盤が築かれつつある。当館も中核となる加盟館として連携し以下のような共同事業をおこなった。自然史系博物館における収蔵品データ整備事業・研究会、標本救済ネット事業、公開シンポジウム、巡回展(鳴く虫)事業、フォーラム「市民調査と博物館」など。

大阪市の博物館群、植物園との連携

当館は大阪市美術館、歴史博物館、科学館などとともに昨年度から「8on」と呼ばれる共同プロモーションを展開している。なかでも、平成20年9月12日(金)～10月13日(月・祝)の32日間にわたって開催された「ミュージアムウィークス大阪2008」では、各館所蔵の「お宝」の紹介や、スタンプラリーなどの共同プロモーションが行われ多数の参加者を得た。本年度の「お宝」は「大阪の■■■」をテーマとして、当館からは「大阪のクジラ ナガスケ」を紹介した。詳しくは大阪市ゆとりとみどり振興局による報告をご参照いただきたい。

<http://www.city.osaka.lg.jp/yutorito-midori/page/0000025579.html>

同時に、各博物館でのアートイベントを開催し、多様な博物館の愉し見方を提案する「文化教育連携事業」が展開され、当館では大阪市音楽団との共同イベント「音楽と自然の夕べ」及び科学館との連携による「出張恐竜はり絵」、さらに「ポテトチップス」との協働による「みんなで創るネイチャーボール」を開催した。

また、小学校及び中学校向けの博物館美術館展示品を活用した学習促進のための教材として「博物館・美術館資料でかたるおおさか事典」、「博物館・美術館資料で語る大阪事典」の2冊を共同で執筆、刊行した。

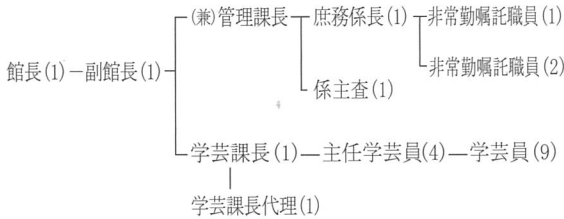
長居植物園との連携では昨年度に引き続き、植物園からの依頼により園内ガイドシート(ワークシート)を作成した。

I. 沿革

- 昭和24年11月 8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
 昭和25年 4月 1日－自然科学博物館費予算に計上
 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下において展示開設
 昭和27年 4月17日－博物館相当施設に指定
 昭和27年 6月 2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
 昭和27年 7月10日－博物館法第10条により登録(第2号)
 昭和27年10月 1日－筒井嘉隆 館長に就任(39. 7. 4退任)
 昭和32年 6月 7日－市立美術館より西区靱2丁目(元靱小学校校舎改造)に移転
 昭和33年 1月13日－開館
 昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
 昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定(文部省)
 昭和39年 8月 1日－筒井嘉隆 館長に就任(非常勤嘱託ー40. 7. 31退任)
 昭和40年 8月 1日－千地万造 館長に就任(58. 6. 1退任)
 昭和42年 ー大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
 昭和44年 8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織
 昭和45年 4月 ー自然史博物館建設委員会組織
 昭和47年 1月21日－自然史博物館建設工事着工
 昭和48年 3月31日－自然史博物館建設工事竣工
 昭和48年 4月 1日－旧館閉館
 昭和48年 7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結(竣工49年3月)
 昭和49年 4月 1日－大阪市立自然史博物館条例公布
 昭和49年 4月26日－自然史博物館開館式挙行
 昭和49年 4月27日－開館
 昭和51年 8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
 昭和58年 7月 1日－千地万造 館長に就任(非常勤嘱託ー61. 3. 31退任)
 昭和59年 6月 ー常設展更新基本計画案策定
 昭和60年 3月 ー常設展更新計画書策定
 昭和61年 3月31日－常設展更新業務完成
- 昭和61年 4月 1日－新装開館
 昭和61年 4月 1日－小川房人 館長に就任(兼務ー2. 3. 31定年退職)
 昭和61年 4月 1日－千地万造 顧問に就任(非常勤嘱託ー2. 3. 31退任)
 平成 2年 4月 1日－小川房人 館長に就任(非常勤嘱託ー3. 3. 31退任)
 平成 2年度 ー文化施設整備構想調査
 平成 3年 4月 1日－小川房人 顧問に就任(非常勤嘱託ー5. 3. 31退任)
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任(4. 3. 31定年退職)
 平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業
 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
 平成 4年 4月 1日－柴田保彦 館長に就任(非常勤嘱託ー7. 3. 31定年退職)
 平成 7年 4月 1日－宮武頼夫 館長に就任(9. 3. 31定年退職)
 平成 7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
 平成 8年度 ー展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討
 平成 9年 4月 1日－宮武頼夫 館長に就任(嘱託ー10. 3. 31退職)
 平成 9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
 平成10年 4月 1日－那須孝悌 館長に就任(13. 3. 31定年退職)
 平成10年12月 ー花と緑と自然の情報センター建築工事着工
 平成13年 3月 ー花と緑と自然の情報センター竣工
 平成13年 4月 1日－那須孝悌 館長に就任(非常勤嘱託)
 平成13年 4月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行
 花と緑と自然の情報センター開館
 平成17年 4月 1日－山西良平 館長に就任
 平成18年 3月 1日－本館リニューアルオープン
 平成18年 4月 1日－指定管理により(財)大阪市文化財協会が指定管理者となる
 平成19年 3月24日－第5展示室一部リニューアルオープン
 平成20年 4月26日－第5展示室全面リニューアルオープン

II. 組 織

■職員数 (平成20年4月1日現在) 計22名



■職員名簿 (平成20年4月1日現在)

職 名	氏 名	職 種	氏 名
館 長	山西 良平	学芸課長	樽野 博幸
副館長兼管理課長	清島 英治	学芸課長代理	川端 清司
庶務係長	木全 達男	主任学芸員	石井 久夫
係主査	美川 真一	〃	金沢 至
嘱託職員	日達 昇	〃	波戸岡清峰
〃	吉田 義昭	〃	塚腰 実
〃	竹村 勇治	学芸員(昆虫)	初宿 成彦
		学芸員(動物)	和田 岳
		学芸員(植物)	佐久間大輔
		学芸員(四紀)	石井 陽子
		学芸員(四紀)	中条 武司
		学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
		学芸員(植物)	内貴 章世
		学芸員(動物)	石田 惣
		学芸員(植物)	志賀 隆

■人事異動

平成20年4月 1日 清島 英治 副館長兼管理課長として
美術館から転入
塚腰 実 主任学芸員に就任
黒崎 法男 (財)大阪市都市工学情報
センターへ転出
平成21年3月31日 山西 良平 大阪市退職
自然史博物館館長に就任
石井 久夫 大阪市退職

III. 庶務日誌

■平成20年度 博物館関係者来訪

- 20. 11. 29 富士原岳自然科学館
施設設備の概要
運営、行事の取り組みについて
展示物の見学、野外施設の見学
- 20. 11. 23 第22回アジア生物学教育協議会
展示及び教育活動について
- 20. 12. 17 秋田県立博物館
施設、収蔵資料等について
館内見学
- 20. 12. 18 熊本博物館
資料の収集、作成、保管状況について
- 21. 1. 24 全日本博物館学会
会員の研修 (展示、バックヤードの見学)
- 21. 2. 20 独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター
インドネシア国生物学研究センターの標本管
理体制及び生物多様性保全のための研究機能
向上プロジェクト・カウンターパート

■館長受嘱委員 (～平成21年 3月31日)

- 全国科学博物館協議会 理事
平成19年 4月1日～平成21年3月31日
- 国土交通局近畿地方整備局
大阪湾岸道路西伸部環境影響評価技術検討委員会委員
平成20年5月4日～平成21年3月31日
- 近畿地方整備局 淀川河川事務所 淀川環境委員会委員
平成20年 4月1日～平成21年 3月31日
- 財団法人 大阪科学技術センター 評議員
平成21年4月 1日～平成22年3月31日
- 財団法人 大阪市文化財協会 理事
平成20年 4月 1日～平成21年 3月31日
- 財団法人 日本博物館協会 理事
平成20年 6月10日～平成22年 3月31日
- 兵庫県立人と自然の博物館 協議会委員
平成19年10月8日～平成23年10月 7日
- 大阪府教育委員会事務局
大阪府文化財保護審議会委員
平成20年1月19日～平成22年1月18日

IV. 決 算

■平成18年度～平成20年度（人件費を除く）

（単位 千円）

		事 項	平成18年度 決 算	平成19年度 決 算	平成20年度 決 算	
歳	第1部	入 館 料 ほ か	16,527	26,897	23,986	
		雑収（展示解説等売却代）	894	1,650	1,538	
		国 庫 補 助 金	0	0	0	
	第 1 部 計		17,421	28,547	25,524	
入	第2部	府 補 助 金	0	0	0	
		第 2 部 計	0	0	0	
	第1部・第2部合計		17,421	28,547	25,524	
歳	第1部	常 設 展 覧 事 業	1,896	1,532	1,745	
		特 別 展 覧 事 業	2,789	10,277	16,340	
		調 査 研 究 事 業	10,679	12,413	9,291	
		資 料 収 集 保 管 事 業	2,470	3,242	2,629	
		普 及 教 育 事 業	1,772	4,532	4,984	
		充 実 活 性 化 事 業	2,874	2,170	2,112	
		一 般 維 持 管 理 費	321,009	319,884	330,589	
	小 計		343,489	354,050	367,690	
	出	第2部	館 蔵 品 整 備 事 業	0	0	0
			寄 贈 標 本 整 理 事 業	0	0	0
デジタルミュージアムの推進事業			0	0	0	
施 設 整 備 事 業 等			0	0	0	
収 蔵 庫 設 備 整 備 事 業			0	0	0	
小 計		0	0	0		
第1部・第2部合計		343,489	354,050	367,690		

V. 入館者数(平成20年度)

月	区分	有 料					無 料							計	開館 日数	
		個 人		団 体		有料計	団 体					個 人				無料計
		大人	高・大	大人	高・大		幼・保育園	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体引率者	中学生以下	優待・招待 その他			
(20) 4		5,926	210	490	104	6,730	489	6,049	239	39	440	6,259	3,295	16,810	23,540	27
5		7,189	265	204	260	7,918	2,567	13,965	471	135	1,211	5,695	2,574	26,618	34,536	27
6		4,585	341	150	0	5,076	413	1,213	407	26	172	3,859	1,717	7,807	12,883	25
7		2,859	450	23	106	3,438	751	0	11	40	86	3,202	1,142	5,232	8,670	27
8		6,532	1,310	76	38	7,956	101	0	28	7	16	6,629	1,905	8,686	16,642	27
9		3,794	230	136	46	4,206	10	266	135	19	43	3,206	1,535	5,214	9,420	25
10		3,078	116	277	225	3,696	2,634	10,019	945	347	1,268	2,652	1,842	19,707	23,403	27
11		2,934	123	160	0	3,217	1,053	1,370	1,191	23	275	2,972	3,764	10,648	13,865	26
12		1,157	219	10	0	1,386	186	137	234	12	97	1,228	566	2,460	3,846	23
(21) 1		1,557	275	45	28	1,905	113	114	32	37	58	1,660	771	2,785	4,690	23
2		2,448	122	46	88	2,704	325	324	420	0	60	1,933	1,424	4,486	7,190	24
3		4,541	187	160	0	4,888	689	93	209	0	135	3,788	2,179	7,093	11,981	26
計		46,600	3,848	1,777	895	53,120	9,331	33,550	4,322	685	3,861	43,083	22,714	117,546	170,666	307

■無料団体観覧内訳(平成20度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	113	5,779	58	3,552	171	9,331
小 学 校	127	11,008	232	22,542	359	33,550
中 学 校	39	1,961	40	2,361	79	4,322
特別支援学校・他	8	125	5	308	13	433
福 祉 施 設	12	146	11	106	23	252
団 体 引 率 者		1,592		2,269		3,861
計	299	20,611	346	31,138	645	51,749

■特別展入館者数（平成10年度～平成20年度）

区分 年	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高・大	優待・ 他無料	中学生以下 料無	大人	高・大	中学生以下 料無				
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8. 1～10. 11	6	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8. 7～10. 11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7. 20～ 9. 24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4. 27～ 5. 27	28	50周年だよ!標本集合!!
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6. 9～ 7. 22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8. 4～ 9. 24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10. 6～11. 25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12. 8～ 1. 20	31	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド
840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3. 16～ 3. 31	14	世界の蝶と甲虫	
2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4. 31～ 5. 12	36	世界の蝶と甲虫	
14	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7. 6～ 9. 1	50	化石からたどる植物の進化
6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9. 14～11. 4	45	目で見る「がん」展	
15	4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7. 19～ 8. 31	50	日本鳥の巣図鑑
4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11. 29～ 2. 1	49	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2	
16	1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4. 1～ 5. 30	44	いきもの図鑑 牧野四子吉の世界
2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7. 17～ 9. 5	44	貝—その魅力とふしぎ	
17	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7. 16～ 9. 4	44	ナチュラリスト展
103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10. 8～11. 27	45	恐竜博	
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7. 29～ 9. 18	45	大和川展
8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7. 7～ 9. 2	51	世界一のセミ展	
19	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9. 15～11. 25	62	世界最大の翼竜展
8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3. 15～ 3. 31	14	ようこそ恐竜ラボへ!	
28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4. 1～ 6. 29	79	ようこそ恐竜ラボへ!	
20	30,389	6,218	18,560	8,708	2	59	564	74,500	7. 19～ 9. 21	56	ダーウィン展
1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10. 25～12. 7	38	地震展	

VI. 施設の利用状況

■会議室 平成20年度 90件

年月日	団体名	人数
20. 4. 2	WSサポートスタッフ研修	20
20. 4. 9	管理職連絡会	10
20. 4. 16	自然史博物館経営会議	8
20. 4. 19	鳥Feiナ-	
	原体験教育研究会	
20. 4. 20	昆虫情報処理研究会	11
20. 4. 24	ダーウィン展会議	7
20. 4. 26	野尻湖花粉グループ	7
20. 4. 27	野尻湖花粉グループ	7
20. 4. 28	野尻湖花粉グループ	8
20. 4. 29	野尻湖花粉グループ	8
20. 5. 1	恐竜ラボ展打合せ	7
	管理職連絡会	10
20. 5. 2	コンサート打合せ	
20. 5. 3	恐竜ラボスペシャルツアー	
20. 5. 11	日本鱗翅学会	20
20. 5. 13	自然史博物館経営会議	8
	センター事務打合せ	
20. 5. 15	設備打合せ	
	広報会議	
	ダーウィン展実行委員会	7
20. 5. 20	ダーウィン展会議	7
20. 5. 28	ミュージアムイクス	

年月日	団体名	人数
20. 5. 30	特殊建築物検査	
20. 6. 3	センター事務打合せ	
20. 6. 4	管理職連絡会	10
20. 6. 13	「鳴く虫巡回展」打合せ	9
20. 6. 17	自然史博物館経営会議	8
20. 6. 21	ハチ研究会	6
20. 6. 22	アカトンボ	
20. 7. 5	ピオトープ	39
20. 7. 9	ダーウィン展会議	7
20. 7. 13	昆虫情報処理研究会	9
20. 7. 17	アルコール関係検査	3
20. 7. 19	サポートスタッフ夏休み研修会	
20. 7. 22	自然史博物館経営会議	8
20. 7. 24	フロアミーティング	
	JST-GBIF	7
20. 7. 29	教育研修	
	学芸会議	
20. 8. 2	ピオトープ	35
20. 8. 6	WSサポートスタッフ研修	20
20. 8. 19	高校生物教育研究会シボジュールム	10
20. 8. 23	植物園案内	5
20. 8. 24	標本同定会	
20. 8. 26	ダーウィン展スケッチコンテスト審査会	6

年月日	団 体 名	人数
20. 9. 3	博物館実習	
20. 9. 4	博物館実習	
20. 9. 6	ビオトープ	45
20. 9. 19	自然史センター理事会	
20. 9. 24	自然史博物館経営会議	8
20. 9. 28	昆虫情報処理研究会	10
20. 10. 5	日本鱗翅学会近畿支部	13
20. 10. 10	直翅類学会	10
20. 10. 18	近畿植物	12
20. 10. 21	自然史博物館経営会議	8
20. 10. 25	友の会の夕べ	
20. 11. 18	自然史博物館経営会議	8
20. 11. 22	植物園案内	5
20. 12. 2	渡りチョウを調べる会	10
20. 12. 11	無脊椎DB GBIF会議	7
20. 12. 14	甲虫学会	15
20. 12. 16	自然史博物館経営会議	8
20. 12. 20	コケ調査	
20. 12. 21	昆虫情報処理研究会	10
21. 1. 10	ビオトープ	29
21. 1. 11	近畿地学会	15
21. 1. 17	友の会評議員会	
21. 1. 22	自然史博物館経営会議	8
21. 1. 24	友の会総会	
21. 1. 25	友の会総会	
21. 1. 31	ハチ研究会	6
21. 2. 1	近畿植物	10
21. 2. 7	鳥の調査の勉強会	
21. 2. 8	友の会	10
21. 2. 11	友の会	10
21. 2. 12	管理職連絡会	9
21. 2. 15	昆虫情報処理研究会	15
21. 2. 22	大阪石友会	12
21. 2. 28	アサギマダラを調べる会	15
21. 3. 1	関西自然保護機構	16
21. 3. 6	高校生物研究会との会議	8
21. 3. 11	フロアミーティング	8
21. 3. 14	近畿植物	15
21. 3. 15	日本鱗翅学会近畿支部	9
21. 3. 17	自然史博物館経営会議	8
21. 3. 22	近畿植物	18
	ハチ研究会	5
21. 3. 27	ボランティアまつりサポートスタッフ	25
21. 3. 28	ボランティアまつりサポートスタッフ	25
21. 3. 29	ボランティアまつりサポートスタッフ	25

■集會室 平成20年度 93件

年月日	団 体 名	人数
20. 4. 1~ 4	遠足下見説明会	191
20. 4. 8~11	遠足下見説明会	506
20. 4. 9	シニア自然大学	
20. 4. 16	シニア自然大学	
20. 4. 22	大阪インターナショナルスクール	18
20. 4. 23	シニア自然大学	
20. 4. 27	野尻湖友の会	23
20. 4. 29	クジラスタンプラリー	
20. 5. 1	恐竜ラボ打合せ	
20. 5. 3	オープンセミナー	30

年月日	団 体 名	人数
20. 5. 11	日本鱗翅学会	54
20. 5. 18	恐竜ラボ	
20. 5. 28	鳥の観察	
20. 6. 7	ビオトープ	
	オープンセミナー	28
20. 6. 8	ジュニア自然史クラブ	
20. 6. 12	博物館実習	20
20. 6. 14	自然写真講座	
20. 6. 21	鳥Fセミナー	
21. 6. 22	大阪石友会	
21. 6. 24	博物館実習	20
20. 6. 26	南田辺女性会	40
20. 7. 5	オープンセミナー	47
20. 7. 11	高校生物研究会	30
20. 7. 12	鳥ゼミ	
20. 7. 13	鳥学会	
20. 7. 16	ダーウィン展事前説明会	30
20. 7. 19	自然写真講座	
20. 7. 20	ナイトミュージアム	
20. 7. 21	ナイトミュージアム	
	地団研	
20. 8. 2	オープンセミナー	48
20. 8. 3	ジュニア学芸員になろう!	9
20. 8. 5	南河内教育研究会	37
20. 8. 7	教員向け博物館利用	27
20. 8. 10	博物館見学	30
20. 8. 20	いちようコンサート	15
20. 8. 21	教員向け博物館活用	22
20. 8. 22	和泉市理科部会	11
20. 8. 24	標本同定会	110
20. 8. 26~29	遠足下見説明会	168
20. 8. 30	甲虫学会作業会議	7
20. 9. 2~5	遠足下見説明会	152
20. 9. 6	オープンセミナー	41
20. 9. 9	大阪市教育研究会	27
20. 9. 21	自然史センター総会	
20. 10. 2	オープンセミナー	
20. 10. 3	鳥の調査の勉強会	
20. 10. 4	コンサート	
	オープンセミナー	46
20. 10. 11	鳥Fセミナー	
20. 10. 29	月例ハイキング コオロギ相撲	20
20. 10. 25	甲虫学会	32
20. 11. 1	自然写真上達方講演会	
20. 11. 6	西日本私立小学校連合会	40
20. 11. 8	大阪鳥類研究グループ	
20. 11. 9	友の会秋祭り	
20. 11. 11	大阪市立大学	
20. 11. 14~16	KONCサミット	
20. 11. 18~19	職員研修会	
20. 11. 20	自然写真講座	
20. 11. 23	生物教育学会	
20. 11. 29	藤原岳自然科学館	20
20. 12. 6	オープンセミナー	54
20. 12. 7	関西トンボ談話会	30
20. 12. 14	甲虫学会	39
20. 12. 21	シダとコケ談話会	
21. 1. 6	プロジェクトY甲虫	4

年月日	団体名	人数
21. 1. 10	鳥Fセミナー	
	オープンセミナー	27
21. 1.11~12	どきどき子どもウォッチング (小学生)	
21. 1. 15	大阪コミュニケーションアート専門学校	23
21. 1. 17	自然史センター総会	
21. 1. 21	近畿植物	26
21. 1.24~25	友の会総会	
21. 2. 1	関西トンボ談話会	
21. 2. 4	消防訓練	
21. 2. 5	フロアミーティング	
21. 2. 7	オープンセミナー	
21. 2. 8	友の会	
21. 2. 11	友の会	
21. 2. 14	鳥Fセミナー	
21. 2. 21	大阪市教師養成講座研修	23
21. 2. 22	近畿植物	23
21. 3. 1	タンボポ調査	
21. 3. 7	オープンセミナー	40
21. 3. 8	大阪鳥類研究グループ	
21. 3. 14	鳥Fセミナー	
21. 3. 21	釣文化協会	
21. 3. 22	シダとコケ	
21. 3. 24	府立能勢高校	15
21. 3. 28	甲虫学会	29
21. 3. 29	関西トンボ談話会	

■実習室 平成20年度 105件

年月日	団体名	人数
20. 4. 1	ジュニア自然史クラブ	22
20. 4. 2	ワークショップ研修 (レプリカ)	
20. 4. 5	ピオトープ	56
	オープンセミナー	28
20. 4. 7~8		
20. 4.12~13	恐竜ラボ展ワークショップ	142
20. 4. 19	なにわホネホネ団	
20. 4. 20	関西菌類談話会	38
20. 4. 26	植物園案内	10
20. 4.26~27	恐竜ラボ展ワークショップ	124
20. 5. 3	ピオトープ	41
20. 5. 4~5	恐竜ラボ展ワークショップ (バン)	185
20. 5. 8~9	ホネホネ団	
20. 5. 11	ホネホネ団	
20. 5. 18	恐竜ラボ展ワークショップ (バン)	25
20. 5. 24	植物園案内	5
20. 5.25~26		
20. 5. 30		
20. 6. 4	保全協会	
20. 6. 6	堺市R P B	
20. 6. 7	ピオトープ	57
20. 6. 7~8	恐竜ラボ展ワークショップ	161
20. 6. 11	松原市教員研究会	15
20. 6.14~15	恐竜ラボ展ワークショップ (バン)	165
20. 6.21~22	恐竜ラボ展ワークショップ	153
20. 6. 28	植物園案内スペシャル	6
20. 6. 29	なにわホネホネ団	
20. 7. 1	教員向け チョウ・ガ	
20. 7. 2	教員向け 火山灰	11

年月日	団体名	人数
20. 7. 12	中学校理科部会	
20. 7. 13	なにわホネホネ団	
20. 7. 19	ハチ研究会	8
20. 7. 20	自由研究相談会	
20. 7. 21	ナイトミュージアム	
20. 7. 20	ダーウィン展ワークショップ (バン)	
20. 8. 1	なにわホネホネ団	
20. 8. 2	プロジェクトY研修	
20. 8. 3	教員向け 火山灰	7
20. 8. 5	ジュニア自然史クラブ	
20. 8. 6	教員向け コケ	
20. 8. 7	教員向け ボーリングコア	3
20. 8.14~16	ジュニア学芸員になろう!	32
20. 8. 19	大阪府私学教育研究会	
20. 8. 20	教員向け チョウ・ガ	
20. 8.21~22	なにわホネホネ団	
20. 8. 23	植物園案内	5
20. 8. 24	標本同定会	15
20. 8. 27	教員向け 電子顕微鏡	
20. 8. 29	「はらっぱ」実習	25
20. 8.30~31	なにわホネホネ団	
20. 9. 3~7	博物館実習	72
20. 8. 10	大阪シニア自然カレッジ	
20. 9.13~14	ダーウィン展ワークショップ (バン)	
20. 9. 15	なにわホネホネ団	
20. 9. 18	日高高校	60
20. 9. 27	植物園案内	3
20.10. 4	ピオトープ	51
20.10.11	教員向け ブランクトン	30
20.10.18	植物園案内スペシャル	6
20.10.19	月例ハイキング コオロギ相撲	20
20.10.25~26	なにわホネホネ団	
20.11. 1	ピオトープ	36
20.11. 5~9	博物館実習	18
20.11.14~16	KONCサミット	
20.11.22	ダンゴムシ	40
	植物園案内	3
20.11.23	高校生物教育研究会	
20.11.24	なにわホネホネ団	
20.11.28	環境省	
20.11.30	教員向け 樹脂包埋	
20.12. 6	ピオトープ	42
20.12. 7	大阪自然環境保全協会	
20.12.14	鳥の調査の勉強会	
	自然史センター理事会	
20.12.20	なにわホネホネ団	
20.12.21	プロジェクトY甲虫班	7
20.12.23~25	なにわホネホネ団	
20.12.27	植物園案内	3
21.1. 6~7	なにわホネホネ団	
21. 1. 10	博物館実習	3
21. 1.11~12	ドキドキ子どもウォッチング (小学生)	
21. 1. 17	プロジェクトY甲虫班	9
21. 1. 18	室内実習 キノコ	31
21. 1. 20	シニア自然大学	
21. 1. 24	植物園案内	3
21. 1.24~25	友の会総会	
21. 1. 28	シニア自然大学	

庶務

年月日	団体名	人数
21. 1. 31	教員向け イカ・タコ	30
21. 2. 1	イカ・タコの体のつくり	15
21. 2. 3	シニア自然大学	
21. 2. 7	ビオトープ	30
21. 2. 8	室内実習 マツボックリ	17
21. 2. 11	友の会	
21. 2. 14	なにわホネホネ団	
21. 2. 15	プロジェクトY甲虫班	5
21. 2. 18	大阪市教育センター研修	
21. 2. 21	なにわホネホネ団	
21. 2. 22	室内実習 魚のからだ	16
21. 2. 28	植物園案内	4
21. 3. 1	タンポポ	
21. 3. 7	ビオトープ	40
21. 3. 8	室内実習 ヒメドロムシ	21
21.3.14~15	なにわホネホネ団	
21.3.20~22	野尻湖昆虫グループ 春合宿	14
21. 2. 28	植物園案内	5

■講堂 平成20年度 50件

年月日	団体名	人数
20. 4. 5	保育大学	220
	オープンセミナー	
20. 4. 6	シニア自然大学	250
20. 4. 9	シニア自然大学	60
20. 4. 12	恐竜ラボトーク	150
20. 4. 19	プロジェクトY中間発表	60
20. 4. 26	地球環境大学	230
20. 5. 2	清風南海中学校	
20. 5. 9	近畿大学付属小学校	94
20. 5. 10	地球科学講演会	140
20. 5. 17	地球環境大学	200
20. 5. 18	恐竜ラボトーク	80
20. 5. 24	地球環境大学	200
20. 5. 31	恐竜ラボトーク	170
20. 6. 14	地球環境大学	
20. 7. 5	地球環境大学	200
20. 7. 12	地球環境大学	200
20.7.20~21	ナイトミュージアム	94
20. 7. 26	ダーウィン展講演会	216
20. 8. 13	ガラパゴス上映会	214
20. 8. 14	ガラパゴス上映会	214
20. 8. 15	ガラパゴス上映会	224
20. 8. 19	高校生物教育研究会シンポジウム	
20. 8. 23	ダーウィン展講演会	200
20. 8. 30	ダーウィン展講演会	167
20. 9. 13	地球環境大学	200
20. 9. 18	日高高校	62
20. 9. 27	地球環境大学	200
20. 9. 28	博物館実習	
20.10. 2	オープンセミナー	
20.10. 5	日本鱗翅学会近畿支部	47
20.10.11	地球環境大学	200
20.10.16	本田小学校	103
20.10.21	智辯学園奈良カレッジ 中学部	90
20.10.25	地球環境大学	200
20.11. 1	オープンセミナー	103

年月日	団体名	人数
20.11. 2	地震展講演会	90
20.11.15~16	かんさい自然フェスタ2008	623
20.11.20	上小阪中学校	170
20.11.23	高校生物教育研究会	
20.11.29	地震展講演会	122
20.12. 6	オープンセミナー	54
20.12.27	友の会	105
21. 1. 22	グリーンコーディネイター総会	165
21.1.24~25	友の会総会	174
21. 2. 8	大阪湾海岸生物研究会	
21. 2. 21	オープンセミナー	39
21. 3. 1	関西自然保護機構	
21. 3. 8	シニア自然大学	250

■イベントスペース 平成20年度 2件

年月日	展覧会名
20.10. 4~11. 3	特別陳列「鳴く虫巡回展」
21. 1. 9~ 3. 1	ミニ展示「大台ヶ原の自然」

■ネイチャーホール 平成20年度 5件

年月日	展覧会名
20. 3. 15~ 6. 29	特別展「ようこそ恐竜ラボ」展
20. 7. 19~ 9. 21	特別展「ダーウィン展」
20.10.25~12. 7	特別展「地震展」
21. 3. 20~ 4. 5	特別陳列「こんなにいる！大阪湾の貝800種！」
21. 3. 27~ 4. 2	特別陳列 押し花で植物を「描く」

Ⅶ. 施設

自然史博物館本館

- 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号
- 敷地面積 6,743.68㎡
- 建築面積 4,392.67㎡
- 延床面積 7,066.01㎡
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下1階、地上3階

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計 2,427.48㎡		(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第5展示室	360.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計 1,802.82㎡		
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計 604.27㎡		
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m	
		(平均)	
ミュージアムサービスセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
旧実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)	計 907.49㎡		
館長室	36.54㎡	2.70m	
副館長室	18.27㎡	2.70m	
事務室	83.34㎡	2.70m	

応接室	29.54㎡	2.70m
休憩室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計 1,323.95㎡	
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベーター	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■ 階数別面積

地階	855.07㎡	3階	550.95㎡
1階	3,178.35㎡	屋階	76.93㎡
2階	2,404.71㎡		

■ 各室定員

講堂	266人	集会室	48人
会議室	22人	旧実習室	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階	3人		

■ 工期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円
・本体工事(株竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費	
ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(株日展)	2,200万円
・第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社)	2,500万円

庶務

- ・第3展示室ディスプレイ (㈱丹青社)
2,100万円
- ・オリエンテーションホールディスプレイ
(㈱電電広告) 600万円
- ・展示品購入費 3,200万円
- ・庁用器具、調査、研究用機器、
資料保管用物品等 4,400万円

■ 国庫補助金・起債

- ・国庫補助金 3,000万円 (47.10.13付交付決定)
- ・起債 3億8,762万円 (47.8.25付交付決定)

花と緑と自然の情報センター

- 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■ 敷地面積 1,203.81㎡

■ 建築面積 1,203.81㎡

■ 延床面積 5,000.00㎡

■ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下1階、地上2階塔屋付建物

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の高さ)
大阪の自然誌	638.82㎡	4.20m	
ネイチャーホール	764.95㎡	7.00m	
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場(1)	47.99㎡	4.00m	
準備室兼置場(2)	68.34㎡	4.00m	
冷蔵庫室	21.99㎡	5.00m	
資料前処理室	20.14㎡	4.00m	
一般収蔵庫	748.34㎡	5.00m	
特別収蔵庫	688.22㎡	5.00m	
液浸収蔵庫	323.48㎡	5.00m	
前室(1)	36.80㎡	4.00m	
前室(2)	16.20㎡	4.00m	
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター	111.11㎡	5.00m	
ミュージアムサービス	39.22㎡	5.00m	
実習室	105.75㎡	3.00m	
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター	32.78㎡	5.60m	
空調機械室	116.93㎡	6.50m	
機械室	722.99㎡	5.60m	
E V機械室	49.08㎡	5.60m	
技術スタッフ室	15.58㎡	3.00m	
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下	28.74㎡	3.00m	
1階廊下	48.30㎡	3.00m	

1階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
プロムナード	28.00㎡	5.00m
2階便所	57.02㎡	2.50m
E V室	47.52㎡	2.90m
トラックヤード	88.13㎡	
階段	103.18㎡	
総計	5,000.00㎡	

■ 階数別面積

地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	993.04㎡
3階……	49.08㎡

■ 工期 平成10年12月～平成13年3月

- 総事業費 41億6,665万円
- (建設工事費) 24億4,558万円
- (設備工事費) 11億9,650万円
- (設計監督委託料) 5,751万円
- (外溝工事費他) 4億6,706万円

■ 起債等

- ・起債 34億7,477万3千円
- ・雑収(宝くじ協会) 3億6,001万7千円

○ 大阪市立自然史博物館条例

制定 昭49. 4. 1 条例 39
最近改正 平17. 9. 22 条例109

(設置)

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

(目的)

第2条 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (7) その他必要な事業

(休館日)

第4条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その翌日）
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、第16条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第5条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間

について準用する。

この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第5条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第5条第2項の規定により読み替えられた第4条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第6条 博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第7条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物又は附属設備を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第6条の許可を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

(入館の制限)

第9条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認めるとき

(観覧料)

第10条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2 常設展示場の観覧料は、1人1回につき、次の表に掲げる金額の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観覧料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

3 特別展示室の観覧料は、1人1回につき、1,200円以内で教育委員会が定める。

(施設の使用及び使用料)

第11条 施設の使用の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、1日につき、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内で教育委員会が定める額の使用料を納付しなければならない。

- (1) 特別展示室 32,000円
- (2) 講堂 17,000円

(附属設備の使用)

第12条 使用者は、教育委員会が定める使用料を納付して附属設備を使用することができる。

(使用料の納付の時期)

第13条 使用料は、前納しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、後納することができる。

(観覧料等の減免)

第14条 教育委員会は公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料又は使用料を減免することができる。

(観覧料等の還付)

第15条 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することがある。

(管理の代行)

第16条 博物館の管理については、地方自治法(昭和22年法律第67号。以下「法」という。)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体(以下「法人等」という。)であつて教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第17条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会の定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会が定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第18条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指

定管理者の指定を受けることができない。

- (1) 破産者で復権を得ないもの
- (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消の日から2年を経過しないもの
- (3) その役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。)のうち、次のいずれかに該当する者があるもの
 - ア 第1号に該当する者
 - イ 禁錮禁以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
 - ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第19条 教育委員会は、第17条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの(以下「指定管理予定者」という。)として選定してはならない。

- (1) 住民の平等な利用が確保されること
- (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
- (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第20条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

(業務の範囲)

第21条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
- (2) 建物及び附属設備の維持保全に関すること
- (3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第22条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附則(抄)

この条例の施行期日は、市長が定める。

(施行期日 昭和49年4月2日市告示120)

○自然史博物館規則

制定 昭49.4.26(教)規則12
最近改正 平18.3.31(教)規則6

大阪市立自然科学博物館規則(昭和32年大阪市教育委員会規則第16号)を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館規則

(開館時間)

第1条 自然史博物館(以下「博物館」という。)の開館時間は、午前9時30分から、午後4時30分までとする。ただし、都合により変更することがある。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、都合により変更し、又は臨時に休館することがある。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)にあたる場合は、その翌日
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

(入館の制限)

第3条 次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 資料又は施設を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他教育委員会が管理上支障があると認めるとき

(観覧)

第4条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2 観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

(観覧料)

第5条 大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定による観覧料は、1人1回につき、次表のとおりとする。

区 分	観覧料
高等学校、高等専門学校及び大学並びにこれに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

2 条例第4条第3項の規定による観覧料は、1人1回につき、1,200円以内でその都度教育長が定める。

(使用許可の申請)

第6条 条例第5条第1項の規定により特別展示室又は講堂(以下「施設」という。)の使用許可を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を

記載してこれを教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名及び住所又は勤務先(団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)
 - (2) 使用の日時
 - (3) 使用の目的
 - (4) 使用する施設及び附属設備
 - (5) 特別の設備をしようとするときは、その内容
 - (6) 入場者の予定人員
 - (7) 入場料その他これに類する料金を徴収するときは、その金額
 - (8) その他教育委員会が必要と認める事項
- 2 前項の規定により申請した事項を変更しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。
- 3 第1項の申請書は、次に定める期間内に提出しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。
- (1) 特別展示室の使用許可 使用期日の6月前の日から30日まで
 - (2) 講堂の使用許可 使用期日の3月前の日から7日前まで
- (使用の制限)

第7条 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
 - (2) 営利を目的とするとき
 - (3) 建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき
 - (4) 管理上支障があるとき
 - (5) その他教育委員会が不相当と認めるとき
- 2 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることがある。
- (1) 偽りその他不正の手段により条例第5条の許可を受けたとき
 - (2) 前項各号に定める事由が発生したとき
 - (3) 条例又はこの規則に違反し、条例又はこの規則に基づく指示に従わないとき

(使用料)

第8条 条例第5条第2項に規定する使用料は、別表第1のとおりとする。

2 条例第5条第3項に規定する使用料は、別表第2のとおりとする。

(観覧料等の減免及び還付)

第9条 観覧料又は使用料(以下「観覧料等」という。)の減免及び還付は、教育長が行う。

2 観覧料等の減額又は免除は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料から次に掲げる額を減額することがある。
 - ア 30人以上50人未満の団体 観覧料の1割

- イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割
- ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

- (2) 常設展示場に入場する者が長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料から長居植物園の入場料相当額を免除する。
- (3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除する。

(資料等の利用)

第10条 資料及び施設の利用については、教育長が定める。

(損害賠償)

第11条 資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを原状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

(資料等の寄贈及び寄託)

第12条 博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料等の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

(寄託資料等の免責)

第14条 寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によつて滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責めを負わない。

(施行の細目)

第15条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

附 則(昭和51年4月1日(教)規則第15号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(昭和56年4月1日(教)規則第17号)

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和61年4月1日(教)規則第10号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成元年4月1日(教)規則第9号)

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成4年4月1日(教)規則第24号)

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則(平成5年4月1日(教)規則第3号)

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成7年4月1日(教)規則第18号)

この規則は、平成7年5月1日から施行する。

附則(平成13年4月27日(教)規則第20号)

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成18年3月31日(教)規則第6号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

別表第1(第8条関係)

区 分	使 用 料		
	午 前	午 後	全 日
特別展示室			32,000円
講 堂	7,000円	10,000円	17,000円

備 考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。

別表第2(第8条関係)

	区 分	使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
特別展示室	冷房設備			16,000円
	暖房設備			16,000円
講 堂	冷房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡声装置	1式 午前、午後各1回につき		1,800円
	マイク	1本 午前、午後各1回につき		500円
	ワイヤレスマイク	1本 午前、午後各1回につき		1,100円
	テープレコーダー	1台 午前、午後各1回につき		900円
	スライド映写機(スクリーン付)	1台 午前、午後各1回につき		1,300円
堂	16ミリ映写機(スクリーン付)	1台 午前、午後各1回につき		4,200円
	ビデオ装置	1式 午前、午後各1回につき		2,200円
	液晶プロジェクター(スクリーン付)	1台 午前、午後各1回につき		1,900円

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。

○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭49. 4. 27
最近改正 平18. 4. 1

(目的)

第1条 この要綱は大阪市立自然史博物館規則第5条(平成18年大阪市教育委員会規則第6号。以下「規則」という。)の規定による観覧料及び使用料(以下「観覧料等」という。)の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(学校園等の教職員等の観覧料)

第2条 保育所、幼稚園、小学校、中学校、盲学校、聾学校(以下「学校園等」という。)又は養護学校の保育士又は教職員が、学校行事で園児、児童又は生徒を引率して大阪市立自然史博物館(以下「博物館」という。)に入場しようとするときは、当該保育士又は教職員の観覧料を免除する。

2 前項の観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会(以下「教育委員会」という。)にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入館の日時
- (2) 学校園等の名称、住所及び代表者氏名
- (3) 入館の目的
- (4) 入館者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(社会福祉施設の教職員等の観覧料)

第3条 次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の職員又は介護者が、入所者を引率して博物館に入場しようとするときは、職員、介護者(ただし、入所者1名につき1名に限る。)及び入所者の観覧料を免除する。

- (1) 生活保護法(昭和25年法律第144号)
- (2) 児童福祉法(昭和22年法律第164号)
- (3) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)
- (4) 知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)
- (6) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)

2 前項の観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入館の日時
- (2) 社会福祉施設の名称及び代表者氏名
- (3) 施設の設置根拠となる法律の名称

- (4) 入館者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

3 次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及びその介護者1名の観覧料を免除する。

- (1) 第1項第3号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
- (2) 第1項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
- (3) 知的障害者福祉法施行令(昭和35年政令103号)の規定による判定書
- (4) 原子爆弾被害者に対する援護に関する法律(平成6年法律第117号)の規定による被爆者健康手帳
- (5) 戦傷病者特別援護法(昭和38年法律第168号)の規定による戦傷病者手帳

(大阪市内在住者の観覧料の特例)

第4条 大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証を所持している者は、観覧料を免除する。

(視察等の観覧料)

第5条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料を免除することがある。

- (1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
- (2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
- (3) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の観覧料の免除を受けようとする者は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 入館の日時
- (2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
- (3) 視察の目的
- (4) 入館者の予定人員
- (5) 視察する者の代表者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(使用料)

第6条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則第3条に規定する特別展示室、講堂及び附属設備の使用料を減額又は免除することがある。

- (1) 指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認め

る行事に使用するとき

(2) 博物館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき

(3) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき

(4) その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

(1) 使用の日時

(2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）

(3) 使用の目的

(4) 使用する施設及び附属設備

(5) 入館者の予定人員

(6) その他教育委員会が必要と認める事項

附 則

この要綱は、平成13年4月27日から施行する。

附 則

この改正要綱は、平成18年4月1日から施行する。

○ 博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館

制定 平成7年2月1日

改定 平成13年3月10日

(目 的)

1 この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生の受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入の規制)

2 受入れの時期は夏期（7月後半～8月末）又は秋期（10月初～11月末）の期間中とし、1人当りの実習日数は5以内で、当館が指定する。

3 受入れ人数の総数は、年間20名以内とする。ただし、1大学については5名以内とする。

4 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学又は地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。

5 実習の内容は、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助などとする。

(受入れの願書)

6 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係又は博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期及び希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受けけない。

(受入れの諾否)

7 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

8 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室又は学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

※各年度における実習日程については、当該年度4月までに、ホームページ上に掲載する。

○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

制 定 昭51. 12.
改 正 昭54. 7.
最近改正 昭62. 12.

(目的)

1 この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

- 2 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。
- 3 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

4 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

- 5 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。
 - (1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
 - (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
 - (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
 - (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
 - (5) その他詳細については、当館と打ち合せすること。

(その他)

6 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

	決 裁	管理課長	庶務係長	保 員
年				
月		学芸課長	主任学芸員	学芸員
日				

平成 年 月 日

写真・テレビ撮影等許可願

大阪市立自然史博物館長様

所在地
会社・団体名
代表者氏名印
(担当者:)
(電話番号:)
次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いいたします。

日 時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
目 的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	
(テレビの場合) 放映日時 番組名 タイトル (写真の場合) 掲載紙名 記事タイトル 著者名 発行者名 発行年月日	

写真・テレビ撮影等許可書	
様	大阪市立自然史博物館 館 長
平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ撮影許可願」について次のとおり許可します。	
日 時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
目 的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	

○ 外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館
制定 平成12年 4月 1日

第1条 (目 的)

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

第2条 (定 義)

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

第3条 (期 間)

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

(2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

第4条 (手続き)

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員（利用しようとする標本又は設備を管理する学芸員）から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式1）に記入する。

(2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付）を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。（様式3）。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。

（外来研究員については前年度2月15日）。

第5条 (許 諾)

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

第6条 (経 費)

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

第7条 (報 告)

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

第8条 (成 果)

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

第9条 (変 更 ・ 中 止)

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

第10条 (資 格 の 取 消 し)

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

様式 1

No. _____

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一次的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日		
目 的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利 用 者	氏 名	所属または住所	電話連絡先
担当学芸員名			

決	館 長	副 館 長	管理課長	学芸課長	庶務係長	係 員	学 芸 員
裁							

様式 3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)
住 所 _____
電 話 _____
氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

様式 2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(所属機関の長または指導教官)
所属機関 _____
所在地 _____
電 話 _____
職 名 _____
氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究者	所属部局 (教室)、職名 (学生)、電話連絡先
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2008

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

Issued : March 31, 2010.